元禄拾
壬寅
重寶記

ヲ8
910

目録

78
910

四季草花植作り様

一春花 三種 一夏花 八十一種

一秋花 五十五種 一冬花 五種

并三蘭之作り様 一雑花 六種

一夏花 追加二種

一牡丹の拵 絵の様 奥三り

一土の拵 絵の様 一こやしの事

四月七月

立花正伝

一物の物 并 結器

一さしやうの事 十二ケ条の事

口伝 奥の奥 ことの

神祇道 六十三ケ条

一御敗正服忌令

和歌の事 卒九

一完定流の秘事

医学道 初学

陸七月

一脈乃深 一血の虚実

一熱 一気血の盛衰

一脈乃浮沉 一脈乃緩急

一疾病 一人体の脈

一男女の分別 一浮沉遅数

一四季の平脈 一北四脈乃

右之外脈乃乃拵面師流

口伝くり

名医諸流乃秘方

一屠蘇白散 元三用 一年中

一牛黄円 竹黒の中方 一切乃

一返魂丹 毒付并傷病吉

一延齢丹 右同乃

一丁子円 疼切毒付傷病用

一万金丹 毒付傷病

一紫金錠 右同乃

一豊心丹 大人小児傷病吉

一太補湯 一切乃毒血傷虚吉

一地黄丸 傷病腎虚の薬

一神仙巨勝子円　諸虚弦損

一通気散　一切の頭痛

一延命散　弦病

一錦袋子　家の中方乳材弦病上口

一和中散

一木香丸　家の中方ある弦病

一木香検郎丸　右かぐんの方

一枳木丸　ちしのつゝへ弦病

一香薷散　ちくらん暑気

●単方　脚くく　紀ス

一虫くだし　一こうじ

一ろりけ　一こうゆ　ぐま

一きくんぐう　一切の三ツ

一やけど　一ちち分

一ろんじゃう　一ものくちり

一血とめ

一万病膏　茅朮　憂ゝ　一切

一香薷散　表の傷風　吉

一壁香散　傷寒風邪病病

一鬼毒散　傷寒　時疫弦病

一柴湯

一芍茱湯　一切の頭痛

一調和飲　右同ジ

一参帰芍茱湯　右同ジ

一胃風湯　右同ジ

一駈し　胸痛湯　心痛弦

一清熱解鬱湯　心痛

一椒梅湯　一さいろんのやうの系

一五淋散

一補中益気湯　内傷虚損

女人産前産後の養生　百五十

一陰胎ろう　一男をなす法

一女子と胎　一安胎薬

一紫蘇和気散　一産前の食物

一産前の食物　一中のるのかろ

一痩胎散

一さんやふ四ひとの方の

一寿ところ時ろう

一そうやめのくすり　三方あり
一芎帰湯　さんの時用ル薬
一芎帰調飲　産後諸病
一安神散　右同
一黒神散　さんこの毛付
一産後の食禁ぜぬ物のすじ

小児一切の薬の製

一延生丹　一乃法　夏二子
一丸香湯　小児乃法病一切ふ
一同加減乃方　家傳名方
一保童円　小児五舞乃内方
一香蟾丸　五舞法のひくしつ
一阿伽陀円　右同
一万億丸　小児方

養人乃拵さしやうの方

百六十

一養人髪乃薬
一養人髪乃生もとの薬
一養人髪乃あらわく薬
一養人髪ぬくもと薬
一養人面乃あらひ薬
一面脂ニ成白くもと薬
一養人口乃ふやひ薬
一養乃病の方
一仏経ハ他の長方
右名石蔵乃秘方と記と

馬乃くすりの製

夏二十

一牛乃くすり　二種あり

酒乃拵方

夏二十

一豆淋酒
一忍冬酒
一薯蕷酒
一楊梅酒
一清茅酒
一蒲萄酒
一菜酒
一枸杞酒

一鯨酒　一山川酒
一醴酒　一煎酒

一酒ノ名ひさしとくとくの　百九十
味噌納豆ノ拵やう　百九十
一御前白味噌　一早作り味噌
一ごうこんそ　一唐がらし
一漬ものしやう　一こんにゃく納豆

一ひしかの　百卅三
石餅　方いろく
一栗もち　一とのひしもち
一外郎餅　一ごぼう餅

一やくもち　百卅四
千菓子ノ方いろく
一やうん　一ちくごん
一ひりこいとう　一かしてう
一ぶくしひ　一あめ
一ちろわら　一ちろ〳〵ゑん餅
一ちろんぐい　一かしらのちんぐい
一ひりこいり　一ひりこやん
一ぶつらと

一かせいさ　百卅五
瀛世金書ノ菓子ノ方
一白雪糕　一八仙糕
一白玉糕　一玉露霜

方ノ菓子ノ方　百卅六
一栗の羹　一金柑の羹
一兎羹　一ぶどう羹
一ゆり羹　一ひのき羹
一ゆり羹　一ゆり羹
一ゆり羹　一ゆり羹
一越瓜羹　一橘羹
一竹の羹　一椿の羹

料理のうん　百卅七
正月ノ十二月ノ毎月ノ
のうん　正月ノ十二月ノ毎月ノ
正月ノ十二月ノ毎月ノ
のうん　正月ノ十二月ノ毎月ノ
正月ノ十二月ノ毎月ノ
うん　正月ノ十二月ノ毎月ノ
毎月ノ毎月ノ
毎月ノ毎月ノ
あまもの　ことあへ
ことあへ　さうかのろい

○諸式帳
節用集

然れハ人ハ
自然
切紙

唐紙弓合三湾ニ折ル
掛軸書様
鼻紙ハ方ハ二信ニ
書合仕様
茶道具
竹筒
刀剣細工
六枠ハ茶壺双
筵掛
棹
自然ハ
書畫
拂塵
机
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上使雲霧くし蹴鞠長
り下ける長くと高乃
是所発来れ朱うめ
出来者朱ト毎しもを
紙座る紙者紙ハ
きし孫まて所の
四れお点参一珠飯と
ト方内し出物流て仕
家人所出日乃うめ
明ほれ直歌中ト結
交い者出者合義と
出れ縁所ト きん
取お縁縁儀家所と
交く来一色たを仕と
紙帯えく所海
ゆる実糸ニ所下い糸
出賊元ト人九込
所寸像石先ハ

清国ニ行ける使出て
出一門中く出状ハ
ぐく出遇ハて
大出れ程ハ毎ハ今
日出入紙ハ毎中ハ秋方
巣行の方日出方ハ
投稿務ハ
清ニ流出ハの
家ハく行ハ
洗ハ道迎し程真ハ流
及大酒ハ下ト押
延ハ代来中ハし酔れ
京紙出紙者中ハ出ハら
き家ハく出遇て流遇
毎ハ中程れ庵てト
内ハ清ハし一中ハ紙ハ
なハハ遇れ酒誠ハ
き程ハし出新ハ

切くさまいの病者
逆流仕候
此書付ハ
明かに
付ハ書紙
ヨワ名古屋
此方
此方
此方

月次し[illegible]
[illegible]
委[illegible]
自画景望[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

麩 [illegible] 豆腐 [illegible] 麹
味噌 [illegible] 醤油 [illegible]
[illegible] 貴 [illegible] 酒

蓼 [illegible] 胡麻 [illegible] 山椒
胡椒 干瓢 [illegible] 茶 [illegible]
[illegible] 芥子 [illegible]

大根 牛蒡 胡瓜 [illegible]
大角豆 [illegible] 蕨 [illegible]
芋 [illegible] 元 [illegible]

松茸 椎茸 平茸 [illegible]
茸 [illegible] 茸 町中
[illegible] 椒 [illegible]

栗 串 [illegible] 木 [illegible] 桃
梔 枇杷 [illegible] 柿 [illegible]
柚 [illegible] 柿 [illegible]

[illegible] 茗 [illegible]
[illegible] 茗 [illegible]
[illegible] 茗 [illegible]
[illegible] 茗 [illegible]
[illegible] 茗 [illegible]

○人名以文字おもなる

| | | |

知火　千火　仙火　六火　大火
團火　瀧火　岩火　多火　良火

右二十五字ハ火性の人吉　土性の人吉　金性二吉　火性乃字あり

伊土　猪土　喜土　宮土　紫土
又土　恒土　與土　友土　慈土
流土　一土　和土　右土　鶴土

右八十五字ハ土性の字あり　金性の人吉　水性の人凶

市金　作金　次金　宗金　樹金
清金　林金　秀金　松金　義金
亟金　志金　常金　作金　孫金
辰金　巳金　丑金　三金　口金
七金　十金　戈金　神金　遠金
左金　亟金　明金　左金　なし

右八十八字ハ金性の人吉　水性ハ凶

○耕作業の事

古の農耕ハ興ることゝ神代の古へ大己貴命ハ農業を始めたまひて天ハ下を治め給ひ[illegible]
[illegible]天津彦火瓊瓊杵尊ハ天津種子を授け給ひ[illegible]
[illegible]ことゝ[illegible]
つ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大根の種を蒔たるとき又大根と用ふるものとは
初めとは八月節ふへて種
と蒔三十日ばかり大根あ
風味付こと月ふれば味有
節ふへて種と成肥しハ
ゆりう油うとう
胡麻ハ六月ち用ふること
もに菜と同じく生長し
て枝ふくりて根ふくあり
花さに実ふるこのゆる六
月ち用ふ種とあるあり
首へ八月中旬に種とまた
をは中に蒔て植てまふ
ちは長とるこ種ハ六月ち
用ふ実のこと
牛蒡ハ六月節ち種
蒔く三月ち根出来く
支枝をけて四月ちもと
用ゆるる六月ち用ふてみ

肥しハ
ゆるる油うとう
初うもん菜ハ六月ち用よ
七八月ちこれ種蒔蒔枝を
ちうまとこ用ふ六月節ふ
実のりてこうこ成るあり
蕪菁ハ三月ふ種と蒔く
支乃ち用ふさけこと色
種にあるこるる根ふ種と植
るあり枝ふ葉ふれく九月
ちも用ふも畠ふ生せざる
ハふ用ふつくるあり
鳥羊ハ三月ふ種成植て
六月ふこうこて枝ふあり支
のこあり
羊ハ三月初ふこと植く
支乃ふるこ生長し七月ち
根成こり用ふ成こやこい
もとこるこ
こうこみこ成り根成

菊花いろのひんかを種
切るのくうれ秋のひんん
ちり花代五月ありり
○長生草同じ
何前爲いろのひんは
ぬるるとと種五月のちんん蔓
ふるり秋小ちりてぬるま
実のり花い生ちもして何
前爲とあり
茄子やりのかとひい
正月中旬にまとまれに
月小花され六月節小入
ありとびとあるるとと
ちに二月のとあ小種と蒔
六月の節小花され六月の
小ちりのとびとあるあり
茄子いや晶代ちとふと
ひんく同じ地に二年え
びとあやまりく同じ地に
ニ年種れい苗生ちり七月

かるしず清ふ抜小ちりく
正ちうく種ちも肥ーいか
しちりちうちとと
前若い去乃ひんん小さ
とまれ二月のとあ小苗と
種く五月生ーー七月の前
小入く茄とちる秋乃とあ
りとあるとちるあり
豆ハ二月乃節小入ちる日
ちとまれ二月の初小苗
と種く六月小ちうちら六月
初小新ちうち先とくわ
いとり前りと去のひんん小
ちとまれ六月初小苗と
苗て六月小ちうちら七月と
新代りり洗ちうひ十月
小出てちるあり
若去ハ七月の節史日乃
ちうとと代秋小ちうちらそ
実のり十月中小ちりは去

ひろめり
紙いとや紙に六月節小入
て十日めふとあるふひと
わくらゐのふ紙にせこ時と
ちくまの線のられふつこと堀様
ちくへと見てつこ
ゐにそくろふつぐうせに
時代いく芽りへ出るく芽の
りへ出る時に老て色
乃四ゆく日新れわくる示に
てびくあくられ同と
けいくへ出るこ示びくへ
出る紙島にくへく和切
ひけして生出るひくつぐ
ひ切ひとるこ月の節ふ
死こに六月ふれ多るくり
又書れ四ふ漬る紙とこ
に四月の節ふてと島に色
ま穂くく六月ふくらに月
ふれしるくに用ふられと用

○干鯨ハ三月乃ちとふ稲と
う魚に四月六月ふくらに去
月ふみのりに用のくらり
ひきてはとり
名紙に六月ふ稲と書せて
六月ふくらに七月八月ふ
みのくり
西瓜に四月ふ稲と蒔六月
ふくらに去用ふ熟と
栗ハ薄栗栗表のの
んふ稲と蒔ふ入て熟とと
て七月の節ふ入て熟とと
四月六月ふ稲ふまくもと
もらい秋乃のんと稲て
熟と黍ももふ同じ
稗ハ六月六月ふ稲ふ蒔て
十月十一月ふ熟とくり
夏大豆ハ表乃のんふ稲
とまれ六月ふ表のり六月

小熟して

秋大豆 黒大豆 赤大豆 白大豆 三月

乃節より種蒔まく 夜さろ

くちの例まを秋小豆 白大豆 赤小豆の

中旬 閏月小豆 大豆の小く

夜刻小さくまを切るつ 乃時 俄

まを刈くかれ乃

小あづき 小豆 赤の

くろひ

乃豆 黒乃のびん小種と 種

三月 小豆 黒乃のびん小種と 種

四月七月八月小豆 六月より

熟 黒の緑 乃の 三月種と

まに夜さろ 秋 実のつ

蔵い 黒乃のびん小種と 種

て三月 夜小豆 黒乃

実 夜の 七月

種 蒔く

黒 蒔い 三月 種 人

て夜 秋 黒乃

同じ

生 豆 黒のびん 種と 種

七月 三月節小豆 黒乃

三月 七月 三月

黒 生 実 黒乃

種 生 実 黒乃

赤小豆 三月節 種と

また秋の末に実の

小角豆 黒 実の

びん小種 また 三月の節

小入 実 三月

三月の末に熟 三月

月小種 また 三月 末に熟

と又十八 げと云

さげ 三月節小種 また

六月小さ 種 六月

実 ところさげと云

胡麻 三月節の末 ところ

月 実 種 七月

八月小 実 熟 ところ

道の植やう二月節ふかく
深くうめあのとれわらるる時
植るなり是を拾うゑとも
三節でらざる拾いうゑて
生ぜどとれ家ふ三節ふ三節ふ節
もうめてうゆるなり実植
とうふい麦乃のびんふ道図の
かりらとふかふくけづらく
あのふくさ三三すぐるの花
乃ちるみ色ぬ拾はいば
ふまきとるれちくぶりてふ
うへとのれと生ひて二年
めふれさくなり
麻黍い麦乃のびんふ
とまれ二月の節ふ黄植
七月の節ふ熟と
黍い麦ののびんちこ
月節中種ふすれ二月
ふ苗を植く八月の初り
熟と

蕎麦い三月節ふ六月節
中と種ふ植く六月初ふ
熟と毎日くれ熟しると
ふ拾ってもとるなり
葱い秋乃のびんふ種とまれ
麦乃のびんふ苗とうえて
二月ふこれとうま
四月とも植とるなり
未ふ麦ふ植ふ
分植く秋の節ふ入葱く
なるし明るとこの六月よ
とも熟と
わらきとけざらの稲
ふく性い月じあり
八月ふ拾うふ
月と月ゆ八月ふ
拾ふるなり
蘇い七月ふ種とう
八月九月ふ拾ふ

見と用ゆ種は六月ふかり
花ゆを根ゆを熟とろめし
形ちをんあくとくいふあるこ
見いりて食しても味ひ
こそにてあり　はさまふい
別ちをゆをふでうんありて
外ふあるもあり

○万年花低りやう

万年花　花菖蒲小梅
二月初り花咲元日草
九月日本花梅づく草九
云ちい肥ちふ物とおー加へ
すせ合ふるひてしー○肥い
茶がーとり粉ゆりて右の
ちふおーー変るし○分株ろ
る二月末ー三月節ち

二月末ー九月節ち
葉　花菖蒲小梅
茶もろ二月ふ花さくし

○ちい肥ちふ物とおー
合くしー○肥分株ろる
梅雨草ふ同ー
つんざう　花ろり又のふ
梅し咲法右同○ちい肥ち
る未ちおー合てしー○肥
い実のあくひ汁と時きけ
て右○分株右同あの
けまん　花高又のふ梅咲
法同あ○ちい右三同ー○肥
い茶かくと粉ゆりて右のち
変るし○分株い茶林の時分
軟ふ花　花菖蒲ろ小梅
咲法右ふ同ーんりの○
○ちい肥ちと肥ちとふ分ニ
合せ用　○肥同あの○株分ち
茶物　花菖蒲小梅茶ふ
あーぶ○ちい右ちふ物と合
て用○肥い茶あるふふ夜
と花菖蒲ふかくねやうよ

くくべり○挿分ハ秋なり
○大木さし木ハ本ふとしろし
樒茅 花黄色英白色英あり
小梅 三月三咲○古い肥た三
月ゟ咲と合て用○肥い茅がり
乃樒より○挿分ハ去秋
保春花 花冊色白色英
もろこし三月三咲九輪草ハ九云
○古ハ右同ぶ○肥も同ぶ
○挿分ハ秋なり
あび茅 花白色英樒英
三月三咲あびとまつかり
茅大云○古ハ赤ちり○
肥い莫のあくの汁とわらし
おくべり○挿分去秋
あび茅あび茅 右同ぶ
○挿分ハ秋
金風花 三月三咲金ハ英
乃八ツ三一ツ三紅ハ白色なり
○古ハ肥ちふ砂とまぜて用

○肥挿分同ぶ
茅 花白色紅色三月咲
○肥ハ茅同○挿分ハ秋
○古ハ赤ちふ白砂と交て赤
ぢきん 花茅同三月咲
○古ハ黄ちふ大分○肥ハ
茅ぶくのこ○挿分去秋
八茅 花茅同二ツ白色
三月三咲○古挿分右同ぶ
菖蒲草 花黄色
英○三月三咲○古ハ黄ちふ
とぶまぜろ○肥挿分右同ぶ
あくせいそう 花こい茅三月
咲○古ハ合ちふ○肥莫の
あくの汁 柏 三月○挿分右同
杜若 花紫色英白色英
三月三咲○古ハ西ちふあとろ
用○肥ハごとやころ○挿分同
牡丹の花 花ハ白赤色白色
茅 三月末三咲 茅ハくふ泥ス

[illegible]ばゆり 花黄又白咲法
貝母○去ハ白赤去白砂糖分
○肥ハ紫ひ[illegible]と云中二三月
柏白三地く○梯分去秋
竹麻 花白[illegible]去三月咲
○肥去砂糖と用○梯分秋
九条草 花紫三月咲
○去肥貝母○梯分去
兜花 花紫かく兜花云壁の
ふ多し○壁と去と用○梯分去
九よりゆり 花白又三月咲
○長去ふ白砂糖ふる○肥紫が
のと去ふまぜる○梯分ひげん
こゆり 花ちろべに色○ちい
合去と用○こ切ち同じ
徒意草 花黄又○壁去ふ肥
ちとりぜる○肥ハ面のあふ小後
と根ふそぐ○梯分ハ去秋
貝大葉 花白又○黄同あ
黄芩 花黄又○白赤去ふ

白砂糖分○肥紫ふちろと
○梯分ハ八月
大黄 花黄又 去ふ同じ
山吹草 花白黄ふ肥去
黄去と加ふ○肥ハ奥のあしの
汁○梯分三月中
風車 花白黄白○合去と
用○梯分去秋こと外用の
ふまぜん 花白又○白赤去
ふふとまぜる○肥ハ油かろ
けとこ[illegible]てあちふ根ぐべ
○梯分ハ去秋但秋ふ
ちちぐ去ぐ 花白又○合去
と用○肥ハ奥のあしのちろ
○梯分去秋
山吹 花黄又八月一去去
白又ハ去○黄去ふ砂糖と
用○肥ハ面あふ小後とあこ
柏ちぐぐ○梯分去秋
ふよ鞠 花白又○去肥同

▲麻稜　花白色又八重一重
右二色二茎花下枝〻○青白あ
右八茎花と上て三月頃
▲紫菫　花紫色又白色
○大白赤大ふ白砂ふる者
○植分八月○そ外なくして花又
▲撫子　花赤色○肥い黄のあ
肥大ふ加て赤○肥い黄のあ
らひけを抜にそく○植分
▲赤瓶子　花紫又紅あり
八九月
○大い合云○そ外同あ
▲日光菊　花黄色○黄色
▲当菊　花白色枝葉白枝葉赤
くさ〻○砂長云と月○肥い
葉乃地りとあつて月俗樹を
ぐり○植分三月のとあ又
月の十日ぢ〻んまで
▲きつねん草　花うり色ふ
▲百生つ　大云○合ふと用
○肥い新かしのく○植分青河

のこぎり草　花白色又○樓
三月若中○そ外同あ
▲下野草　花葉色白又葉
赤○肥い黄と月○植分付
乃赤○そ外同あ
▲茅下野　花葉色大乃花
ふくさり白い別○合ふ者
○植分黄狀○そ外同あ
▲白けい　花白色○ふ同あ
○肥い面おふ小使とそく
○植分四月
▲落けい　花葉赤○ふ植
分肥ふ同あ
▲鷺草　花白色又濃紅乃
地とあさ花茎ふ云○ふい
ふ同○肥いる黄とあつ
ふのふふまぢ世板乃白りふ
ぢく○植分八花乃つぎと
ふ時ぶんふ
▲つま隠　花白色之ふ同乃

○たい肥たゝかぬまゝ用
○肥い葉かゝるのとめつて拍
白ちゝ小豆へ○植分い去
山吉葉　花白落る○たい
去ゝ肥たゝる合月○肥い
屋の池うヒ秋冬おつ用
○植分い二月の末ゝ打月
中旬ゝ花源安戸田芋よ
つ毎年移ーあるべー
かゝ拍葉　花白ゝ○たい合
たゝ○肥い清水たとか
粉ゝておつ拍ゝ拍べー
○植分い去
かゝゆり　花ゝ○白赤
ゝ白砂ゝ中世用○肥い葉
かゝゝ粉ゝて拍ゝ拍べ
○植分い去秋
せいらん　花ゝ白○たか
たゝ砂ゝ
わらさへ　花わるゝ白赤

花ゝ
たい去たゝ肥たゝ
たゝ○肥い葉
ゝ二月ゝ小夜ゝ
おゝ小夜ゝ
計ニ○植分い去秋
ゝ花ゝ
白の粉ゝ
つおゝ○たい去月
布袋草　花落ゝ白
清水ゝ
ゝ○たい合たゝ○肥い葉
ゝ植分い合の時
紫蘭草　花落ゝ白
ゝ花ゝ
肥ゝ植分　花ゝ白
金魚草　花ゝ白
○たい合たゝ○肥い葉
ゝたゝ○植分
ゝ花ゝ
ゝ花わるゝ
ゝたい合
たゝ○肥い葉
ゝのこたゝ
ゝ植分い去秋
ゝ花ゝ

まるゝ花分よし○たゝ三月
○肥いふ入○実と成まゝ通
一情まる 花白実○たゝ合たゝ
○挿分い去
大葉 花白実○たゝハ白赤去
ふ白乃ふ分○挿分八九月芽
○肥いはく ふ白乃り
物接まる 花白まる
たゝ合たゝ○肥い奥のあゝい
けい○挿分い去
はるかうかゝ 花うゝん実
○たゝ合たゝふ白去まゝ用
○肥挿分たゝふ白乃
ゝゝれ白ゝゝゝゆり
花実ゝら葉ふ実○たゝ合たゝ
○肥い葉かゝのゝ振白ゝに
はく○挿分白あ
ゝゝ白ゆり 花うゝん実○
たゝ白赤たゝふ白乃ふ分○肥
い葉かゝのゝたゝふりゝ振ゝ垂

○挿分二月末分ゝ実月ゝ
振ゆり 花赤実ゝ白振
○たゝ白赤たゝふ白乃ふ分○肥
い葉かゝのゝ葉中ゝ振ゝ垂
○挿分去秋
ゝゝゝゆり 花白実○葉白
武蔵ゆり 花たゝば○葉たゝ
ゝゝゆり 花ゝ○たゝ三ゝ
ゝんゝゆり 花ゝ○たゝ三ゝ
ひゆり 花赤実○たゝ三ゝ
姫ゆり 花ゝ実○たゝ三ゝ
鬼ゆり 花赤ゝ実○たゝ
ゝゝゆり 花白ふ赤ゝゝゝ
乃ゝゝ○たゝ三ゝ
松おゆり 花ゝ葉○たゝ三ゝ
山ゆり 花白ふ赤乃ゝゝ
さゆり ゝ○たゝ三ゝ
挿ふ 花ゝ実一年白赤の八
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
前来年 咲振ゝ一年切よ

かく〳〵○古い肥を水砂とすぜ用
○肥い茶かしのこれおなく
○挿分ハ去乃くろ
淡桜ま 花薄黄白色
○黄色肥挿分古よ同
ち葉桜ま 花黄色○古同
ほんぢ桜ま 花色色
○肥古ニ同○挿分ハ黄色
蒔桜い去秋のちゃん
掛桜ま 花薄黄○古同
花外平 花白色○古ハ金
○肥茶ぢしのと○挿分ハ淡
ひぐぢい 花わさび薄いろの
茶あ二○挿分ハ去秋古同
れちせん桜ま 花紫白わさび
○肥古ハ去秋用ス外同
花わやめ 花紫白わさび
ちと黄色ぢり三びいろ○古ハ
合古〳〵○肥い濃ろ白色
りいろ〳〵桜白色りいろく

挿分ハ去
同ハ去秋 花黄色○古同
同白ハ去秋 花白色 ○古同
桜ぢ 花紫○黄ハ合古と
ま色ろ〳〵ろ用○肥ハ白色
ぢり桜白色りと桜白色りと○挿分ハ
ま玉平 花黄色○古ハ
合古と用○挿分ハ去秋
ぢし 花黄色○ミハ古同
萱平 花くちじ○型古と
肥古ハ分ニ用○肥奥の洗
ちろ○挿分ハ去秋
桜萱平 花薄黄くちじ
○ま外古ハ同一
夏菊 花色〳〵ろ○合古用
○肥白色どろ〳〵と桜白色れ
用ス洗かつ〳〵けこ〳〵く黄色
凡合ハ後ど〳〵おづく桜白色り
ろ〳〵く〳〵○挿分ハ九月前
秋仙花 花白中平○古い

肥ちふ地とませ合○肥い薬
乃わゝい汁○梼分い去秋
さんしこ 花紫○ちい合ち
○肥い茅ゞゝのこ○梼分秋
屑 花白茅○ちいちち
肥ちしふこ久おろ○肥ち
おふふ俵と拓ぬりこくゞ
○梼分いこ久とれまち荷こ
あんちやいろ 花赤万葉し
○ちい肥ちふ地とませろ
梼分いまち
風車 花白久○ちちこ同
○肥いあおふふ俵○梼分まち秋
わふひ 花八まこる葉万葉
○ちい田ちふ合ちもせ月○肥
いどこかりと拓ぬりこく
○梼分い葉とまち秋ふまく
ふ葵 花ちこ同○まかちこ同
おゞゝせんなゝ 花赤ろ
○ぜいい拓ぬりせんなゝし万同

洗濯茅 花落久葉はち
車ちち○肥ちふ地とまち
せ月○肥いあおふふ俵と
そくゞ○梼分まち秋
英葵 花黄ろ○ちい赤ち
ふ肥ちとふ加○肥い英の洗
汁拓ぬりふゆく○梼分同ふ
三河葵 花黄ろ○ちこ同
寄庵花 花黄久○合ちを
用○梼分まち秋
木慣よ 花落久ちふ二種
ろこうい茅ち久○合ち用
○肥いあおふふ俵とそくゞ
梼分まち秋
木香茅 花黄○ちこ同
沢泻 花白ろ茅し○果花
と用こくろとこむち○肥い
くこかりぬ拓ぬり三入○梼分
文月
河骨 花黄ろ茅し ちこ同

平時花　花赤一年ホ郎ろ
○肥去ホ郎すぜ用○肥茶ぐ
ら乃と○椹分夾と孔去寿
朝臭　花わさび白茶　白茶第
○椹分夾とれ三ロ月ずく
そ水同ホ

かんひ　花白赤ろ三○合去
○肥ゐおホ郎と孔とく○
椹分い去へ秋樹トに椹テ吉
聚吉茶　花白夾○去ハ合去
○肥い奥洗汁○椹分去
ありそ花茶ろ三又白ろ毛
八月ホ七月ホ毛喉○去ハ肥
去ホ郎とすぜ用○肥い去三同
椹分い去秋ぬり
茶茶楊　花茶ろ三又ろ郎
前ホ七月三ロ月喉ぬ毛
○去ハ合去○肥い奥洗汁。
椹分去秋
ホ郎仮花白夾○去ホ郎去同

○右楊茶の茶ぬ毛
楊去い去茶茶ぬり
二月三月とく花
○とひ〳〵
茶茶ぬ毛ホ郎
夾茶ぬり三ロ月
六月とく花ホ郎
○毛ぬ秋茶ぬ
ホ郎ぬ九月とく花
仙茶花　花赤白○去ハ
合去と用○肥い茶ゐホ
仮と花白ろ毛く○椹
分ハ三月九月の前樹下
ホ郎
弥茶ぬ　花赤夾○肥去ホ
ぬとホすぜ用○肥い奥の洗
汁花白ろホ郎ろ○椹分去
白陽ホ　花白夾○去ホ郎
茶夾附ホ赤茶夾○去ホ郎

▲板白附子　白文○挿分秋
樹下に挿て植る同じ
▲戻招　花黄色文芝ものこ○肥い茎かしのこ○古い金
○挿分右に同じ
▲桔梗　花八重一重白紫
黄こ紫こ紫こ○肥い茎○古い肥
古ふ物すを用○肥い茎おふ
ふ仮と招知りへうべし
○挿分い表秋
▲仏い桔梗　花白ふん色
入る○茎古ふ同じ
▲沢桔梗　花うり文○茎い
古よ同○元来損ふ吉
はるるい野ふ加くし
▲萩　花白紫○古肥し古同
○挿分文ど表苅苗ふ色
てもかくあり
▲ぞろ萩　花白紫色入又
文撫ぞろ文古ふ月ふ

七月中咲○元外古同お
▲秋海棠　花黄色文○古い同
ちふ肥ふとおまを用○肥い
ぐるかうり招知りふ○
挿分は月日をの付ふ挿て吉
▲終以花　花白赤こちぐ文紫
赤花入○古い長ちに肥ふとまま
を用○肥い茎おふ小仮花色う
へかく○挿分月ふ文とまれ
▲葡萄　挿もうあり
▲白蕃豆　花白文○挿分吉秋
元来同じ
▲赤蕃豆　花紫○中の古同
▲若菖蒲　花○肥ふと月出文咲
▲蘭　花黄色紫七八月三文○挿
古い白赤ふ日物ぞ
仏生ふくかう丈ふ花大
文ふふくうあり汁とお分ふま
ぐくいと文日仮遠田ふくうり
ふふりくう時細吉ふくふり

花とかしらの始りとなる植ゑくしゝ燒
畑の作又は第ふ植ゑ
植ゑふゆねさの穴とめくし常
ふゆのあるかぐんとくくんそ
二月中旬ち九月こゑふあて
春のごとくのあとをくぎけく
見にありべしちからくいゑしゝ
れいねくる九月ふ十月ふ初ち
植ゑ八重ゝ植ゑ八月いちふ
めりとらおからくして桶ふ
とちにおわひあてこの芽紅
あけて八重ゝ紅ゝ咲きこう咲
ふあり九月中月にあれ高ちふあり
とくくべゝ十月ふ正月未ニ
とちにちりかゝべりゝ花ゝ
ニどの付うゑやうふをゝ
夜中い茶かゝとゝ花ふ植
ちふのうゝしゝ行ふてし
ちうくうゝぞ
妙菊 花白○赤ちふ同じ

菊 花紫 ○ちい肥ちふ
白ふ赤ちふ三月ふ用○肥
いる糞とかくこのさく花白ニ
く○植分い表秋
菊 花白○ちいちい赤ちふ
白ふ赤ちふ用○肥柔同
花紫 花白○ちい肥ちふ
こびる茶ちる○茎おの
紫ふ赤ふ
菊 花白赤ちふ
じかむ咲入咲ちふ
る○ちい茎ちふ赤ちふ肥ちふ少
ぢ分くこ○肥いる
りちくくちとりふちゝと
又い面おふ枝と花とりは
みてもこ或い奥のひ
けもうゝかとゝ回ちう
ぢとこ花ちくくよ
ゝく付とあとちけてこ
植分ハ二月乃中より

紺菊　花この葉ありいたい合ち
○肥い田他のこゝかちしけめと
ゝ肥い田他のこゝかちしけめと
ゝ肥い田他のこゝかちしけめと
ゝ

菊人参　花はなしさん○たいさん去肥去
ヒかさ三文○肥ハ去月おの○挿分
二月二文と寄秋の汁ばかりく
鳥頭　花ふり文○肥ちふ砂
○肥奥の洗汁○挿分時別
三七　花落文○肥ちふ砂○肥
いあおふふ伏かし○挿分寄時
庵三七　花黄文○ちかお去月
あとけ草　花中白○ちハ合去
○肥い奥洗汁○挿分い秋
ちとん　花赤わさび○挿分ち
○そかお月お
とくさ草　花中わさび○挿
分去秋○そかお月お
百部草　花紫○肥ちふ砂
ちせ用○肥い紫かくのと挿分ち
ちわらび　花白黄赤○四季式
用くあとくひろし○肥いこと
ゆうりと根ふ入○挿分三月
明日葉　花白大柳ゆり○挿分

ハ家ことり寄寄○花別お
洗木綿い花白○ちち肥去
沙合用○肥いあおふふ伏
うす○挿分ハ去秋
彩南天　花紫○肥ちふ砂
ちせ用○肥い奥洗汁○挿
分去秋
ア毛草　花落文○ちハ合去
そかお月
麦蕎　花一文八寸白落文
○そかお月お
三葉下ろし　花黄文○ちハ
合去○肥い奥乃あしけ
○挿分い去秋
藤うんざう　花白赤落文
○ちハ合去肥去別○挿分去
ぢせい　花お黄○ちち肥
ちふと寄○肥ふ伏と根ふ
そくく○挿分い秋
白ちりがく　花白文○合去

と用○肥い莫の洗汁○麦秋
白小豆を花白大○肥ふ砂
とまゝ用○肥い茶ぶ〳〵の粉
拍にて〳〵○挿分い麦秋
ゆり草○花ちり久○合ち
○肥い莫洗汁○挿分麦秋
右秋咲はいぶ用も六七八
月のうにひ〳〵くれ有り
○冬菜の部
とにい菜 花白大○ちい肥ち
ふ砂おまゝ〳〵くうし○肥い茶
おふ拍ふ小俵又茶ぶ〳〵のこ
○挿分い麦秋
寒菊 花黄大○麦ち肥ち
砂まゝ用○ちうんとかゝ〳〵こて
ちくちふまゝ拍ふ〳〵○挿
分い三月
ちう仙花 花白中黄有り
○麦ちと用○肥いちのちふり
茂とまゝ拍ふ〳〵くうのりけとで肥る

うんとまゝ〳〵〳〵孫ちく
用うし○挿分い六月ち用の中
冬ぜうん 花淡白赤紫乃
おはふ〳〵○ちい白赤ちと砂
とか如〳〵〳〵○肥いちの麦
まりぜとまゝ孫ちと
〳〵りちのう〳〵こて冬時麦
うんで花赤ひちの孫まり
用〳〵〳〵○挿分九月中旬
より十月中旬もく
寒ゆり 花淡白ちと麦
まく咲○ちい赤ちと○肥いちの
ちとうちうんゆり〳〵こうくまゝ
あ白拍白ちう〳〵ちうして
○挿分麦秋又い六月ち月中
○雑草乃部
石作 花白赤淡大わ〳〵
ちぐ〳〵び入咲もけまり
おのちぐびいろ〳〵ちなゝ
一きゝ肥い海ちとあけり

[illegible]くゆ[illegible]とおしもぜ花ぞ
用さう。○拙分ハ[illegible]
毎月毎ハ[illegible]
咲くに花と三年花あり
金柏花　花美々。古ハ肥ち
ゆ[illegible]おすぜくう。○肥ハ毎お
ふ小夜とおれふろ。拙分
ハ二月ち毎月ちもとくく
一年切ふかどろあり
ち藤葉　花美まこ清同
あり。古ハ肥ち古ち古ちとおま
ぜ金くうち。○肥ハ古のち
るゑんり[illegible]行く花四へ
ちうしてう。拙分ハ古同の
紅英　花美ちきなり
○古ハ合ち。肥ハ黄の洗汁
○拙分ハ古同の
万日薄　花紫々みゑ目ハ
ち云。古ハ肥ち小ゆすせ金ス
○肥ハるゑんり[illegible]てち

ち小ふくもぜ肥ち[illegible]て
うしみれくく黄乃洗汁も
ち。○拙分ハ時ち
長春　花白美。○古ハち
ち肥ち古ゆおもせくう
○肥ハ毎お小夜お孫まろ
ちりくう。○拙分ハ同の
○追加ち日
天目ゆり　花ち長紅ち月ニ
花咲ゆ花ち[illegible]むさろ
ちくまんげのごくこく
ゆ天目ゆりと云。[illegible]
肥拙分おゆ乃ゆり三月ー
ぢゆり　花ハ白ち青
咲ゆ花ち天目ゆりのど
ちくむきに咲ゆち三月ン
○拙ちゆ[illegible]ちゆり
ハい[illegible]乃花の不ちゑ
ーくあり邪ちく実
ふちちとちちハを世

人乃もとゆり　あけうこと
ゆりのあとそこと　うこと
○とこ一百合乃ふく
たりゆり　黄白
おとこ一ゆり　赤紅
金沢ゆり　うと紅
あさ日ゆり　黄色
こさと　黄赤
作浜ゆり　同
あらごゆり　同
もぐこゆり　同
秋とこ一
うかこと一　うと紅
こ一ゆり　黒色
かこ一ゆり　赤色
あふごゆり
てうせんゆり　黄赤
かぐ川ゆり　白色
くらゆり　紅赤
ちゃゆり　黄赤

花壇

花とこ一ゆり乃ふん二月
八月ふ植分とこ一ゆり植ち
ゆ一いろ乃ゆりとちこ年
栄ちこ年小ゆり太年太
こ一ゆりとこ一く金く植ち
ゆ一ふとこ一ゆり○又花の時
花ゆ一ゆ一のことゆり植ち
てこ一ゆ一ゆ一花のまいあ
ゆ一ゆ一ゆ一のかりこ
ゆ一ゆ一こ一ゆ一ふこ一ゆ一
あ一ゆ一ふ植れゆ一植ち
ゆ一ゆ一ゆ一ゆ一ゆ一ゆ一
秘伝乃こ一ゆ一ゆ一ゆ一
ふこ一ふ一ゆ一ゆ一ゆ一
とゆ一ゆ一ゆ一ゆ一ゆ一
ま一ゆ一ゆ一ゆ一ゆ一
○やさんこ一ゆ一ゆ一
二月ゆ一植ち法い九月中旬
ち十月中旬乃法ち分植
てこ一ゆ一て植ち時植ち

ひくをもちらとんちを
ろく紙入く板乃うどゐ
やうふ去そうけ植ろちらく
蚕あげくをうふうふて
板之花乃ろぐるやうふ植べ
しこい白赤去ふ砂と十分
一こ豆ハ肥と切りくゆまを
百目ぐり蚕くふんきく
さりて去りこさろ時夜に
ぐ花ふひ用春月ろり
花ぐんふるのふきろろ
るふんをあつく蚕べ板色
とかり蚕ぐゆ、正月の末
二月中法春こくをのろ
とらべ砂ぐふりふゆうと
きを植まくく植ふち
しちりやり乃ゆたやうふ
てふく蚕こ花のさりふ
い芋をぐれふくり月初ゆの成
ふくこう花のはふんべ

板日蚕がくと板ふりふ蚕を
蛻蚕ふ白ゆあひいあろ
とふゆる紙てくぐくこう
がくんのゆいどろ付ろふ
ゆくゆ白ゆふくゆくゆ
木ふ白ゆ付ふる時えと
ゆくいぐれば木かくゆ
えゆまをうゆ六月六用
巳七月初ふたとりて
荷ゆり蚕がくを木ま
たまぜ一粒づゆくてえ
よに蚕がくゆ分紙ゆて
蛤貝ぐ蚕く蚕こ二月中
白乃法右の貝とろへ

○去乃
一長去　一砂長去　一巴去
一赤去　一肥去ハ法ハ法ニ
用くちゆ去ちのこく
ゆくやてえゆ砂さとえ
一砂　一西去　一合去

合せ方は去年古木成ち
枝を切て分ける事くるしき
さらひ用ひる事なり
花又ふたとも
一本のふたとも深山の木のと
はらかなりたふりくるし
○毒草乃
一ゐん一下ゐん一田ゐり
一海あた
一ゐ役
一池ゐ
一ゐ役
右草花乃秘伝終

○立花指南　無極乃
それ花と云ものは
色とりとりの
さまざまの花にあらず
行ひつるりとして
格式

せぎろうなる心成に
つるひ雑木雑草乃
ぐるに流花と云
草に無拘乃
もとより花へ
乃ごとく切り
ともいへども
小長副　支流乃
七つ乃枝はちあひ
さうこと
ぐく
草木乃花
同じく
草はあらぎは
り申くつ
草とあと
乃ゐりそ
用の枝
乃花は

[illegible]

○中心ハ横ふゝ[illegible]

右横ハ花の[illegible]ハ際ふ横ふ

花と葉と添ふ[illegible]

同横とつゞき[illegible]二本ふ横ふ

但[illegible]

[illegible]末[illegible]包[illegible]末[illegible]葉と包ふ

但一方[illegible]

枝葉のあふつふ

十文字ふ[illegible]切[illegible]

向横ふ[illegible]枝の出ふ

[illegible]枝ふ[illegible]枝の出ふ

[illegible]切ふ[illegible]際[illegible]切ふ枝ふ

後ふ[illegible]枝へまふる枝ふ

花瓶ハ[illegible]枝の

[illegible]

○[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

○行の心の事
先枝とまりの枝より上
の長さ四寸位さいなるべし
ど枝とまりの所ごろ所は二寸位
の長さにて切へし枝は
一ツゆくも二ツ三ツゆくもあり
かり法枝の長さ位角
へ切り節は枝のあびるれ
方ゆきにて節
内おゆくも

○若の心の事 曝心
心成い留文ホ若の新ホ
へ切ても留文へ刑若さか
あのらのホかるに若のかは
つひくうに若のかは
ひわ〜枝は若のかは
も見ホ用し

○藤の心の事
枝のかるくホるの方ち
ホ海しのの方のさるの
さうしの枝行ホ用し
中も用ゆ一ものこは用ス副
文の松ホ海とるとこの
○射の花の事 まりず
悪心文流心ホくも心忘副
文流もていい用ドあるの用
道ものも用ゆべしもホ

ゆゑに流派あり其人に由て[illegible]べし
まさに松竹梅を竹と梅とを[illegible]
第一の花とするの法あり
三幅第一の掛物の花瓶に
もろ向いの方第一の花とさしこむ中
みぎの花とさしこむ或は中央
中央の高とかうらてをうし
○そうしきの花のすう
○掛床の下小砂の上ふ
どうづくれ花とさしこむ
心に係心さるべし砂の掛物
花のもの林のあらひを分る
○神前仏の花心の長花瓶
仏の三ぐ長の花
のうるは一花は武二花をそうわと
ゆれば合ゆゑ長ふかるべう
どこに三ぐれあれうう古代を稽
らく外の方ハ第一の枝とつひ
貴ハ[illegible]べし更と高の
枝とハ仏の西像ふかまりね花

[illegible]一瓶の中に[illegible]
用ゆべし心の枝仏ふあるかまた
時ハ一の枝とかの[illegible]山時掛
掛ハ偽ら流と[illegible]と[illegible]べ
者種のまま流のさいと[illegible]
べし神おの花と同じんくるり
神おゆくいゆと新[illegible]枝と
ハつり神おの仏おもて雑木雑
第[illegible]べし[illegible]
○三方面の花のうち
心副文流和[illegible]先面[illegible]一
とう後ちもんさもんくるく
あれ[illegible]べし[illegible]
おほうへうるを面[illegible]
て花のんあり[illegible]
ハ[illegible]
○あ仏ハ一名の[illegible]七[illegible]
心[illegible]
花とるくあげ花とる[illegible]
流和[illegible]

べしかるとはいへどもかくのごとくなるべ
らざる花枝枝枝枝枝枝あり胴付
手ゆえをうわ用ゆまた花多枝ふ
ゆえをうわ用ゆまた花多枝ふ
枯ふあらふ中の別みれまれ
一三枝もるべきうまふ枝ふ
花多枝小枝枝枝枝枝とつるべ
ふとこのるる景とかんべるべ
あまり用しるサ多の二の一花合ふ
知るもとべくあ仏の一るの印べ
乃花ふつふ中に品ありおまふ
紅葉菊金仏花数多葉これの
中と用ゆべ葉乃花葉多ゆて
すくしと形

○菊乃一文乃くり
細仕竹或ハ木中と中ハ指
長副文流ゆゆ付ゆ
あ乃時ハ乃ハ枝うへ
心ハ大海中と小海中と乃
ゆ用ゆべ用ゆべ用ゆべ

とゝり多く用ゐる故おゝ
ゆくもとゝくゝの乃かりそめ花
さゝ実をとゝりつゞけ
とゝくゝ外ふ花をとゝ
ふ樣乃若くゝ乃べ
用ゐ一ゝこれつゝの外ふ乃
つゝふる前樣乃一ゝ
お並とゝくゝ只ゝ
れ地くふんてゝ
○紅葉乃一文の
心副文おつゝへ先一ゝと云
ゆゝどゝ乃ふゝくゝ
ゝゝとゝりゝて乃
和ふゝゝゝ
ゝれとつゝ
つゝふ乃外ふ乃
美合の和奥ふんゝ
▲太二ゝゝ花和ふゝ
外ゝ合七乃一ゝと
一ゝゝゝゝ

○一草乃ゝ
ゝ時節乃ふ花
ありめまゝ
ふ後ゝつけ或
合ゝ苦指
○種乃椰蔭
武ハ副文
用ゆゝ乃ゝ
つゝべ白つゞ
ありつゞ実
○梅生乃ゝ
和ふゝ一年
ゝれゝ心副文
ありゝふゝ
ゝゝゝ
ゝゝ外一ゝ
ゝ乃花
変ゝつゝ

●又帝仮小河用
元三 梅花 桃花 金柑花
上巳 柳 貴茅 除蝶

端午に竹 菖蒲 石竹 蓬
ヒアフニ 桔梗 仙翁花 梶葉 芦
重陽に 菊 萩 鶏頭花
以前に記すとも用ゆべしなり

○四季の人に得の事

春は梅と鶯とを用ゆべしやうぐひす
桜は花と鶯とを用ゆ
一枝の中にあらひ花がりの桜
あらさくらもちあさしべし
夏は杜鵑と花橘とを用ゆべし
乃花に取て花とたたへる
ぐ出て来る時なれば
く植べしなれば下まちげく
つてつのまかりきるなり
秋は一枝のもみぢ若名れ
とあらひてもあるを用ゆまま
あげくきしべし
冬は一枝をもれるる雪
かくく下ふく下まちげく
松はかれのとしをかたり

俳乃に得るべしなり
○四季の人に得の事
春は梅と鶯とを用ゆ
夏は杜鵑と花橘とを用ゆ
秋は一枝のもみぢ
冬は一枝の雪
夏は杜鵑と花橘とを用ゆ
乃花の名を記の前に
みんなもくべし夏秋乃暑氣乃
前に出べしなれば
○三夕乃歌を心得べし
松 小まつ おりしとそ
とそ ひとつ ひとつ
藤 前に
花 小 紙
そ 拾 さ
ぬ ぬ
ひ ひ
花 前
花 小
ま ま
ひ ひ
ま ま

偽りなるべしいはゆる梅やもゝ桃やさくらの
大きなるつゝしやうろうす
梅花 枇杷 [illegible] 用ゆべし何
表法表の陽勾倫乃るすこ
是もまたいとうべし花葉ともてうやは
葉ながくかむとて大きなるもの
はるかに二枝大きなるかはらひよ
りも大きなるべし
ひやくもんはるべし
○胴体りふのりひるすの
牡丹 蓮 [illegible] 曼珠沙花
づゝ [illegible] 乃花 [illegible] 胴より外
使の句 若 [illegible] 用ゆべし
○花云乃花のすの
相生乃心 合心 松竹梅 三心
れいと指べし [illegible] 乃葉
なり思心 [illegible] 松竹
ふぶやうなるしかるべしりもと
るなり [illegible] 竹

[illegible] 用ゆべし
●梅花乃花のすの
花さくるもの
乃花乃葉のすの
●尾陣 [illegible] 用ゆ
[illegible] 花 [illegible] 用ゆ
[illegible] 乃花 [illegible] 乃花
[illegible] 乃花 [illegible] 乃葉
[illegible] 乃花のすの
三十六日より四九 [illegible] 用ゆ
[illegible] 三年 [illegible]
[illegible] 乃葉 [illegible] 用ゆ
[illegible] 乃花 [illegible]
○夏 [illegible] 乃花のすの
[illegible] 胴より [illegible]
[illegible] 竹柳 [illegible]

●変かくしの心

心乃心とりはなしくのさころ時ハ
変と流れかるゝ心ふかけりあ
乃なかと変と流れたる用く
猶ゆしされたるの流れ五
ろ紅梅とあひらふく七ツの
乃なかれ梅ふのくさ中流
ともひとりおしんねあり

○花流れす

心乃一の枝ふれ時ハ変の方枝
つぐ中変ふらひつくして
和ふく一魂と約合る見た流とり

○四添のす

心乃一の枝さぐり面つるね河ハ
心と心乃るるちんふそて
ふとと見と四副とゆり

○中のよ

水仙

花月記

あちさゆ
白菊

ちやが
花菖蒲

桂殿
菊花

大文字の菊
大文字もり
連光

一八
指枝
山ぶし
もぐけ
もぐさ
けし
結び花
風俗花
服ゆり
さくゆり
ふくゆり
庭さく
ひぐん極
桃花
葉ぐ
さくれ
竹
竹のま
ふくのふ
ふくく紅一心心ふり流のと
もぐゆくもし

●地獄ふくまま変ふす
金仙寺
紅菊
又ふくやう
ぐんひ
やぶうし
花立
ふくぶ
石ゆど
小ふざ
ちんもい
ゆりと
流ざく
藤のさう
ざぐり
かうほよ

沢桔梗　とこの風
なでしこ　撫子
桔梗　ひとりぬ
たつなり　ひとりぬ
女郎花　をみなへし
藤袴　ふじばかま
竹　たけ
萩　はぎ
白萩　しらはぎ
つゆ　露
ゆふ　夕
ひぐれ　日暮
ゆふぐれ　夕暮
きぬぎぬ　きぬぎぬ
ゆめ　夢
ぼけ　ぼけ
あさがほ　朝顔
いのこ　猪子
柳　やなぎ
うらめ　うらめ
かやつり草　かやつり草
しらくも　白雲
ゆく　ゆく
ながれ　流れ
中前　なかまへ
○花菖蒲　はなしやうぶ
河骨　かうほね
あやめ　あやめ
いぐさ　いぐさ
ひぐさ　ひぐさ
みくさ　みくさ
うんざう　雲蔵
あぶら　あぶら
ぬか　ぬか
ぬかぶくろ　ぬかぶくろ
ぬかぶくろ　ぬかぶくろ
ぬかぶくろ　ぬかぶくろ

と本ふ通で用ゐるしかり
○後ゐら西京へつゝふ植の
松 梅 桂 柏 薇 柳
枇杷 梅りとさ 桃花
山つゞ 西本 紫花 遠ざゝ
西天 ▲ゐゝの花
いのと柳 ▲ゐゝの花
いの後ゐら紅とつゝゐる山か大
太乃さびの青西京へつゝふ植の
○前ゐら西京へつゝふ植の
芦 菊 石竹 合 仙花 蓮
桂梗 ゐゝや 蓮ざゝ
牡丹 ゐめ 蓮ざゝ
山吹 ゐ花 蓮ざゝ
ひゐつさ ゐ仙 いゐゐ
けー ゐゐ
よまり 薇 ▲ゐゝの花
おゐら西京へつゝふ植の
ゐゐ植の人合西京へつゝふ植ハ

おゐら後ゐゐ花へ植ハ
けゐゐゐゐ植ハ
○ゐゐ ゐゐ植ゐ
松 桂 梅 柏 柳
梅 梅 花
ゐゐ 梅ゐ花
○若ゐ植ゐゐ植の
松 桂 柏 柳 梅 梅
梅ゐ花 細若ゐ花
つゞ ▲太乃花
○柳本芦 ▲太乃花
竹 柳 芦 西天 真若 薇
薇 竹ゐ花
柳 西天ゐ花
西天 芦 柳 竹ゐ
梅ゐ花
落 西天 竹 柳 薇
梅ゐ花 西本 西天
山ゐゐ

白梅に いのこ餅
ぜんに 菊菓
けり
おりしも 万わりの花
○花瓶のこと 梅樹のり
葉乃ちる頃とゑらべて一
枝つくれば小枝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

下ちかすこしまきあけて接ぎ中へあとへ入
ようゝ入の和の矢ぐのつくふ
ぐすけ二まきおけ背て植ゝ三位
新く茎ぬと書こゝろ活あと
すべ茎のれてとゝ茎とゝ根
活もも刷さろ水と打べ
切りこゝ根あり湯清あ
みひゆ行て
道日茎の河背沢接ぎのあ
茎と切ハ先茎ぬ根とくこと
ぬと切あと会て絶こゝろ
接板社のあやあど刷茎根
たづゝとみふつけ地れ
つゝゝもひくくれより
牡丹芍茎けゝ切ハ竹ゝ
成ハ長ちくゝ結が洗ぬ
つゝこつゝ三花こゝ刷も刷カ
見べゝ牡丹芍茎ゝどくゝく
ゝくつひゝ刷細ゝ作ふ
とハゝ長ハゝ込てゝつゝべ牡丹の

仙翁花ぐんびゝ刷根芍茎ふ
接ぎのとちろくゝるど切ハ紙
のくゝ根ゝ花ハ分てかゝコト悪シ
茎又の刷つゝふちれなどゝ結絵
の方と切ハくゝ茎ゝ茎ゝれハ刷ニ
くゝ根ゝ流の入ハのどけハ根て
芍ゝ社ふ接板ふ仏ふて
ゝゝ花ゝさんとゝひゝ刷い
針金と茎ゝ花ゝ入ゝ
とゝくゝ木とゝひゝ三ゝ
ふゝ花ゝ蕊ゝ長ゝ根べ
心ふゝのけゝゝゝ刷ゝ
ゝびゝゝ木ゝゝゝゝゝ
副ゝ流ふ根ふ刷ふて
ぬ根ゝ花ゝ刷ゝ
ゝゝ言ゝゝ接ゝゝゝ
ゝゝゝゝ自ゝゝ
○三ゝ花ゝゝゝ
ゝふ刷ゝ花ゝ

[illegible]

▲右[illegible]

○神道乃[illegible]

神乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

き係わる或い分配あの
書よい父母乃ごとく同性
ゆくも異性ゆくも書の方
乃親族おしべ父母の
じくおまい服忌これと
変べし乃方の父母いま
十月十三ヶ月の服忌
と変べし伯叔父姑
服忌これと変べし
姪妹いわまい書の服
忌これと変べし
乃方の親族おまい服忌
これかくこ書係わる
或い分地服忌
よい同性ゆくも
ても書の父母い
毎り服忌これと変べ
書兄弟姉妹いわまい
世代乃服忌これ
此外書方の親族

服忌これかく
れい父或のとより
服忌これと変べ
一嫡母　忌十日　服三十日
又生母ゆくも又配去
乃後ゆくも絶へ嫁せざり
て死去の時い妻乃子服忌
と変べ　離別
却ゆくい妻乃子服忌
べうし
継父　忌十日　服三十日
但しそうめい服忌
此い服忌
○同前　小母継父の服同
居ゆく離別い服
三十日忌十日変べ
其恵かれば服忌これ
一継母　忌十日　服三十日
但し父死去の陰他嫁

一従父姉妹　忌三十日　服九十日

一妻　忌三十日　服九十日

一嫡子　忌三十日　服九十日

女子ハ嫡子ヨリ生レテモ未ダ婚ヲセザル間ハ従父姉妹ト

一主人　忌十日　服三十日

一主母　忌十日　服三十日

或説ニ云フ父母ノ間ハ嫡子ニ対シテハ外人ノ妻ヨリ劣ル式ニ同ジキモ外人ノ妻ヨリ劣ルト云フ故ニ一説ニ云フ乃服ヲ云フレトモ文面ニ表ハレタル文ハ一方ノ父母ハ未タ婚ヲセザル間ハ外人ノ妻ヨリ劣ル故ニ

一説ニ云フ乃兄弟ノ服ヲ云フ

又礼母ノ子ヨリモ服ヲ云フ

一支父母　忌三十日　服夏至日

一祖父母　忌三十日　服夏至日

母方　忌三十日　服九十日

○四制ニ曰ク支父母ノ後ノ親ノ服ヲ云フ

曾祖父母　忌三十日　服九十日

高祖父母　忌十日　服三十日

母方　忌三十日　服九十日

伯叔父姑　忌十日　服九十日

母方　忌十日　服九十日

○四制ニ曰ク叔父姑ノ服ヲ云フ

母方ノ親ノ服ヲ云フ

兄弟姉妹　忌三十日　服九十日

別服ヲ云フ

○四制ニ曰ク兄弟ノ服ヲ云フ

妻ノ妻ノ服ヲ云フ

夫父母兄弟姉妹　忌十日　服三十日

嫡孫

女子ハ嫡子ヨリ生レテモ未ダ婚セザル間ハ孫ト云フ

嫡子ト云フ

父母ノ後ノ親ノ服ヲ云フ

母方ノ親ノ服ヲ云フ

母のうつりと婦は夫に準じ
ゆ一ゐ孫又玄孫
大同服の通り
とぞ云ふ
ちゐ孫
新玄孫
ゆ服
赤孫

忌三月　服七日
姪方の孫　忌三月　服七日
姪方の孫玄孫　忌三月　服七日
姪方の方孫玄孫
上服忌これなし

○旧制二日方孫玄孫外孫
上服忌

従父兄弟姉妹　忌三月　服七日
父の姉妹のみ并に母の
兄弟のみ旧制百日
のみ服忌とせり又従
父兄弟姉妹　忌七日　服七日

姪孫のみも服忌同じ
○旧制二日姪孫
七歳未満の小児の服忌
但し児死去の時は
三日とか同性の親
一日とか
同じく
日数なり
急ぎ及ぶべし
○旧制
ちゐ孫
ゆ孫
去年月代
忌六十日　服十三月
新玄孫付ち日より
ち月数とぞ
三月数とぞ
一日を急ぎ
けれども
ゆ服忌の
ゆ又の服

[illegible]ハ母の死去の日
[illegible]十日十三日の服忌
[illegible]年の服
[illegible]服忌のうち
[illegible]て服
[illegible]服忌のうち
[illegible]服忌
[illegible]日ねあ
[illegible]日うど
[illegible]服忌
[illegible]服忌のうち
[illegible]日より
[illegible]と更ず
[illegible]れけれ
[illegible]日を過ち
[illegible]日過いで
[illegible]ども

又七日　母三十六日
[illegible]過ぐ
[illegible]ふ七日
[illegible]ども

又七日　母十日
血忌
流産
死穢　一日

又五日　母十日
服忌令のうち

[illegible]ハ一日[illegible]様
他一[illegible]ハ当日も様
[illegible]
踏合ハ　[illegible]
[illegible]中の[illegible]
[illegible]ハ自害[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

○追加

又死去の後母[illegible]
死去の時ハ[illegible]式乃服忌
[illegible]と交乃
離[illegible]母乃[illegible]
[illegible]乃服忌
[illegible]と交乃
[illegible]死去の後[illegible]母[illegible]
[illegible]死去の時ハ[illegible]
小服忌[illegible]
継父母の親[illegible]服忌[illegible]
父ハ[illegible]小服忌[illegible]
但又[illegible]書小服[illegible]時ハ

繼母小姑ニ対シ服忌之事

妻ハ服忌これなし但し
おやもとへ出いくにを為三日
離ごの繼母ハ生母の服忌
これなし
嫡子ハ父母ハ生存男女
色和ハ忌ハ無之
時ハ之れ服忌無之ハ
ゆへ男女共
生母ハ忌ハ未ハ
ハ養育せ
とう部屋ハ
又母乃服忌
服忌
乳母乃
嫡子ハ
ハ小姓

忌ハ
服忌
書ハ
他ハ
ハ十八日
二百七日の服ハ
以上
寅年四月日民
間所 觸下 給之 服忌
令無二 字之 差謬傳寫
而以令開板者也
右之赴尤奥書共以
前板有之令重板者
也
○彩舊相違之例記
又母乃服忌ハ

別命ハ忌籠ノ命ノ新制ハ
おなしかへ

妻ハ夫ノ父母ノ服忌ノ日数
旧制ハ夫ノ服ノ如
但ハ旧制ハ
夫ノ父母ノ服ハ
父母ノ服ハ
公時ハ
交ざる也ハ用捨ハ
ムカシ
新制ハ
忌ハ
十日服十三月
と
支乃服ノ
おなしハ
妻乃ハ旧制ハ
庶子ハ
但ハ
男
十日忌三十日
庶子ハ

十日
後祖伯叔父母
後母乃兄弟姉妹小服ノ
兄弟姉妹乃孫小服ノ
再後又服ノ
舅服ノ
姑服ノ
妻服ノ
日居支乃おなし妻乃
服ノ
支乃甥姪服ノ
支乃伯叔服ノ
妻妾のおのの支の子服ノ
君天子ノ時ハ不見形
但ハ服一年
母方乃服一年
師乃服百五十日或ハ
忌三日
傅尼 服忌不見ノ
左神祇服忌令終

○和哥乃かなづかひの
和哥和語乃かなづかひ
やうくんぎるるもの秘さ
つたへの代を人乃為に
精要をえらびて
書付世に行ひ行ら
者一ふいきくうみひふへ
乃かゝひとゝふるものゝ
ゝ○いきくうとふ

無変　目出度

青　赤

白　黒

いかなづかいをいとふ

ふいと書ていとかどとひ
うと云ふ和ふうと書てふ
とかゝと見ていきくうの
かゝひとゝふ但しひとふ
ふいひと書ていとかゝとふ
とゝふうとうゝとくうと
かゝと見ていひふへのかひ
と云ふ例とくかうゝびは
つとふ濁へきるべし
ひふへのかゝひとゝふいと
ふ

洗　掛

狂　祝

吟　陪

拾　漂

猛　味

教　吾　備

植

唱　采

調　踏

越　消

晃　朗

絶　冴

光　崩

中乃えと書るの中とゆと
もじうかい中のえとくも

燃 もえる
肥 こえる
愈 いよいよ
いよいよ中のえんと云
なるべかりなと紙にしるしてもくるしむ
多くの者にとくるしむ
つまり公式にくるしむかり
陰 かげ
廣 ひろい
潤 うるおい
稲 いね
邦 くに
氷 こおり
白 しろい
樫 かし
小氷山 こおりやま
小氷神 こおりのかみ
小車 おぐるま
小牛山 おうしやま
小牛 おうし
小梅 おうめ
いにしへのことなるべし
奥羽書にのせたる大の字ふつふ
河の川上也なるべし
大方 おおかた
大虎山 おおとらやま
大江山 おおえやま
大海 おおうみ
大原山 おおはらやま
大井川 おおいがわ
大原 おおはら
いにしへの川上也奥のおくかの
郡と書あり字の義乃
ちがひなるべしと
其一板にしるしたる書乃
こゝにつくるの付ろかなるべく
又あるひはえんとく書べし
えんとくの義かれん大原と

[illegible]

[illegible]

一打物　一[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひどうくくるまべー
主（おもと）　漆（おるる）
親王（ちやこ）　小桶（こをり）
紀別（かつこくれ）　徐山（ちやまあらう）
燒酒（やけて）　競（こをそい）
帯（ひこの）　ふる（ふるひ）
冠（おろろ）　恐（おろろ）
紙（ふるくおろ）

ひどうくくるまべー
ひどうくくるまべー
ひどうくくるまべー

垂のうゑ　ゆへ　升　左遠　遠方
細柔　ホ　ハ　ホ　ハ　ホ　ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

以ておのれをもしりぬるのみ
つのくるのみ
暑ごろ 紙しろ 格擦 紙ぶ
霧居ろ 自ら ひかれば
沉枝 ふる 酒盃 漆 ふつと
雲津 頃 飛くるぶ ふれ
いれくるぶ のうつひ
しられるのみ
教ど 本来 ひどる 拂ぎく
梢ごる 徳 不堪 えど
うすれ うどく
以れくるどりしのうむ
忘のみす
梢ごる 未ぶる 蓼 ふる
杖つえ 贅 ぶる
以れくるぶ 忘のみ ひかれ ぶる
遠ふる 恵の熟 に村
ふるぶくるぶ 忘のうつひ
へのかのみ
表ぶ 後ろく 八ぶ やく

よく 白ぶく 苗ぶく 皆ぶく
ぬる 居ふて 皆ぶで
暴ぶる 偏ぶく 膚しず
白ぬ ふる
いられ ぶいひ
れへり のかず
を外び ふのる
ふべし 急 紙 ぶ
ふ付 ふる ふへり
れのん ふ 知 ぶ し
のうむ

○醫師 ぶ 脈 ふ 沈
それ 脈 ふる 先 血 血の
虚気 ふべし 一 ぶの
陽 知 表 めぐる ふて ふ 濃
ふ 血 水 ふ ふ 無 八 ぶ
の法 ふり 裏 ふ ぶれて 問
ふ ふる 虚 ふ ふ
ん ふ へ 地 ふ ふ ひ
ふ ふ ぶ ふ ひ
く ふて 滅 ふ ふ 血 ふ

実とは脈乃わるんまそ
みのうとーとうとぐ脈乃強く
てもとくに実乃へうろめく
気血ホ実がたのもうろ実
ゆり抜れい虚実乃小病
こ脈ゆり平脈の虚色
せどと実ーしもせどと見と

病乃人といかゆり

脈代うけ一脈ところ脈ハ色
表し脈ゆり脈のくくふ
うくこあろうれろ見色の
性朱ちくめぐるれなり
うれとうけてくろてをかわ
つくくくと大ゆろ色の実
しくうんみカあく弱く浮ろ
やうゆろハ色の虚しくうん
右乃とく脈色脈脈のろ
とうのくめぐり表とうくこあ
ちろ抜ホ脈もくこ深よ
うけてくうくひのくし

脈とおーちの
さぐろ菜とろ表ち脈ゆり
血ゆり指のうくれ血
ろうれうき見血乃かもも
くれとけ平ホとてくん
ゆわりそおーかくくあ
い血乃実ーくろ弱い血乃虚ろ
ろぐうりく弱い血乃虚ろ
ろん菜血い浮脈乃見沈
く流るく抜ホ脈色ム沈
ゆくくうりくくろもくも
ゆき熱とおいゆ
れろくんのうき一息乃ろよ
脈平脈ん平脈ん平
きんゆろんのうハ平脈ん平
ゆうゆ表ハ平脈ん平
とくにもろ一息とろ
いろゆゆゆうく一呼吸の乃
とゆ平とろ平息吸とん
入る息ん平中ハうれハとと

あり壯ならざるもの六十かとも記す裏と
うつ六十かとも記す裏と
てとろ〳〵さるへも平脈も
表ふくやはりやはりと数とふの
熱ある脈乃脈し但一六部の
よ乃脈し平脈より沉先
ふはやとにとも遅脈とも
あるさる脈し但一三部の脈
と遅脈ともとも
表裏ふ熱とかしとも
ロ部乃平脈中くも実強
法大の熱脈とも実
強とかとしてもうけても
力ありそつて脈も法大
とい大きあるる脈あり
ロ部乃平脈中くも虛
部微かあるる脈とも
虛脈とかかくうけて
もとに脈も微かとい
もとにとい脈あり

六七部ありて沈大あるい表
熱表裏ともあるとよ沈大とも
つくくあるる脈し表熱とい
表裏ふれと熱せとも表力
つくく熱しるに脈
脈とふ沉しるにしく
大あるる表裏とい沉
しるあり
六七部ありく沉実あるい裏
熱表裏とさも也沉実とい
とふ力ある脈し外さると熱
せとも内熱しるに脈
つくて脈ふかにあり
ロ部ら遅ら遅ら沉細
てとてあるい裏の沉
沉熱ふくやはりある脈
裏ふ沉さる脈ふ表ふ脈ふ
裏ふ脈ふあるも
ロ部ら遅ら遅ら沉細
てとけてあるい表の沉

[illegible]細いと問えば病人脈
表の終るは故小腹ぐまづま
てこわやえん問いなれと塗ぐるん
人迎急脈脈とうて外
邪問篇と和ゝうたのまま
寸関乃中ゑとく迎とこれと
くゆゝふ大なるは外邪ん
人迎ゝふ大なるく脈ゝふいたの
ゆゝ関お一分ふえてとゝ
甲亮寸関の脈の中に積と
為くゝ見とくへ迎とんてて若
りくゝひとくへふ大なるいゝ乳に
乃脈より偏ふ大なるゝゆん
外邪とゝてとゝも入ゝる病
なり或は風寒暑湿乃ゝまふ
ゝくゝれく病とゝれゝ人迎
乃脈ゝ大なりゝ乳温と為ゝ
ふゝ法は香附子桂枝麻黄
のゝゝゝとし暑ゝ法とゝふ
黄芩[illegible]中温ハ

これとゝ乃ゝふ本通独活
乃ゝれゝ[illegible]
木防己茯苓茯神蒼朮乃ゝ
風邪と為ゝ[illegible]
ふゝ外麻黄浦黄芩紫蘇麻
黄香附子のゝと
ゝふの寸関乃中乃乳
ゝとゝ見て偏よ
大なるゝ内傷の病ゝ乳口
とゝ孤虫ふゝ大なの関お一
分ふゝりと立り早亮す
関乃中橋と為見と乳口
とゝてゝ[illegible]偏よ
大なるゝん迎の脈ゝり
偏大なるゝ内傷ゝ内方
やゝふゝ病ゝ飲食の飢他
或ゝ七情乃過傷ゝり病と
なりくゝるゝ乳ゝ見脈ゝたゝ
ゝん迎乳ゝ男女のゝ

脾胃 木香宿砂陳皮
飲食傷 宿食 厚朴枳殼槟榔
喜怒憂思悲恐驚
散 茱萸陳皮香附
降 兵即枳殼
都氣頻世氣
補 黄耆人參沉香
頻入參陳皮茯苓

緊脈のうつ而ゆく痛と知る
緊脈のうつ而ゆきびうつとしびれる脈也
迫とりさくゝ如ク ひいこと脈也
當歸柴胡川芎桂枝芍藥枳殼
左ノコヒン左脇胸痛
當歸地黄蒸瓜木瓜桂枝
左関緊目痛左脇左手痛
尺左小腹左脚足痛
半夏良姜羌活独活薏苡桂枝 當歸
羌活柴胡桔梗升麻人參
右コレ咽痛 當歸 地黄肉桂
桔梗甘草荷葉綿砂陳皮

右関緊口中痛右脇右手痛
尺 良姜高香独活羌活薏苡木瓜 巴豆
右小腹右眼足痛
弦脈うつ而ゆく 狗蹄屈伸
乃弦とし ひいこと脈也 弦いき
とゝとゞ如ク はいこと脈 弦と
もかのりて引くゝ脈
ひ脈いれ項引くゝ
ひうたんうつ
川芎 胆芒 柴胡
すかゝら痛
関弦 疾 癖心腹脇痛
尺 羌活 茯苓 宿沙 桂枝 當歸 半夏
小腹痛 淋 遊 腰痛 胸氣
高香 茯苓 當歸 遠 前米 通 狂 蜘 神 羌活 防己

診脈 痕 癥 積 聚 と知る
常ゝ脈 ひ ゝ ゝ 脈 ゝ と ゝ
ゝ ゝ 脈 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
結脈 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

たゞ強うること知べし右ハ強ることを知べ
脈ハ弦ハ右ハ強ることを知べ
引三部共ハ弦脈うこざる状
伏脈とゝ云ハ表のうちたゞり大ハ弱りたるこゝ脈
ハ弦と云ハ弦と云ハ表方ハ
ら脈ハ弦と双伏とゝ云ハ
ハ伏脈ハ弦ハ右ハ伏脈ハ弦ハ右ハ強ることを知
柴胡 桂枝 右ハ伏脈ハ弦ハ右ハ強ることを知
苦参 考示 桂枝 表ハ
腹ハ弦ハ表ハ強ることを知
右ハ 芎藭 神曲 白朮 半夏 厚朴 木香 陳皮 生姜
疾ハ弦ハ表ハ強ることを知
疾ハ弦ハ表ハ強ることを知
順ハ弦ハ表ハ強ることを知
乃ハ弦ハ表ハ強ることを知
ハ弦ハ表ハ強ることを知
ハ弦ハ表ハ強ることを知

おもうるあるいは長流
小便こげく　茴香　大便泻一安
しるべし　當歸　桂枝　柴
黄耆　茴香
右尺実法あるこだ濇弱
てこまるやうあるは必ずと思か
あるは上部し安一　黄耆
地黄
右関脾脉乃分別
右関こまるこまるべ大ものべ
虚細あるぬどるこれ関ホ
ぎこしたた太三部共ホ大
ど沉あるべ数あるべ遅
あるべもとホ脉ともあ脉
た右関ホ脉乃付脉
ま右痛脉あり右関の脉実
大ホして強あるべ不合集
脉脉　陳皮　木香　宿砂
槿　陳皮　人参
てよく合るあるこ麻に
痛のいるくやとべしみわも
ホ虚加濇弱あるべい陳皮人参

消しかして泻しやとるべ
右左ホ脉を以べたる
右六六数　左六十数　肾水左
血　筋　尺十五数
寸　関　尺
皮　肉　貴人右
右八三数　右九数
かくのあり脉そうるあ
あるるくらるべしす脉の左六数
とるもあり脉の六数のそさん指を
とレあり脉とみるくのこと
男女乃かりりとたる
男り陽あるあるたホ
ともあるいとあるひあるすロ軟大
ホ関上い中大ホ尺中い沉軟
あるるるる
女い法血と指ともるあるホ
のりとりとりトとあるす
ロい軟弱ホ関上い中軟ホ尺中い
濇滑あるるる
女ホ男乃脉とあるい法虚陽

[illegible]

男子女子の脈とはの陽氣虛ー
風邪と感じやすく陰出る病
[illegible]

[illegible]

脈と組とをとる
組いとやうさこしむとまて七
表八裏九道の脈とて廿四脈
[illegible]
只浮沈遲數の脈とのみ
一切の脈のとやうこともろ

▲浮而ー力 有ハ風すり 無ハ虛すり
▲沉而ー力 有ハ積すり 無ハ氣すり
▲遲而ー力 有ハ痛すり 無ハ冷すり
▲數而ー力 有ハ熱すり 無ハ瘀すり

力ありとは
脈とのくとはしに力ありとは
てとれぬ浮ありとは
浮ありとは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

腎虚の脈は尺部の沈微なるもの
用ゆる中の滑熱を滑熱
いしかわさと称ふ方
熱さしとも右関沈弦なるく
教のうち暁天年あり乃滑熱
肺虚の白虎湯の証
左右の脈ふ因ふ強く気血
乃虚ふ入と知るべし
すいん血と知るところ
右関は肝血とふくむ
尺は腎精とかくこと
ひとつ二脈共ふ血液枯汗のり
るべしとなるは脈ふ軟滑大
洪実大数の脈い血乃平ゆるく入る
ゆる入る虚細濇のうち血乃
虚しゆる入るべし物湯のもと
用くべし
すは肺　肺気とうもろこし
右関脾　穀気生ずるところ

尺は命門　元気のもと
ひとつ二脈共ふ元気
呼吸乃気あり
えるところ脈ふ軟大微沈
ゆるゆるとして平ゆるべし
虚脾のうち気より虚しゆる脈微沈
人べし君子湯のもと用
四季の平脈
春は微弦と平として微
弦ありと云ふいかゆ
いたとりくおー弦乃
かちうるべしとりやすく
くと云ふ弦脈ゆ平脈ゆる
い弦は肝乃ゆ脈ゆ肝は木
春は肝ゆ脈とる
夏は微洪と平脈と微乃
字のごとく日ごとに共脈は心の
ゆ脈ゆ夏は火ゆ旺とる脈
ふ洪脈と夏乃平脈と

秋の微沈　微いとおなじほど
脈の肺乃至脈あり秋の肺
金ゴ脈なる脈あり
冬の微沈　微いとおなじ
沈脈の腎の脈　脈と脈なる
沈脈と冬腎の脈の脈とス
寸関尺三部大小浮沈
遲数脈　脈と云陰陽平和の
脈と云へ　脈　脈と云へ　脈
脈治おかくるべし
かくるく不回あるい治しゲ
ゲ　浮　沈　脈やんで脈やま
ざるいまも脈やんて人やまざ
るいまも脈やんてところいふ
あるく脈ゴ大小の行要し
反常乃脈

人とやるあるく脈まづい
しく病人の脈ゲ　脈
るに人の脈ゲ

人乃脈もむ人のごく　むの脈
るに人のごく脈ゲ　人の脈
大小病ゲ脈沈ゲ　人の脈
ゲ脈　脈　脈　脈　脈
しゲす関尺乃三部小及ゲ
るに云へ人ゲのゼゲに脈
ゲ人ゲのゼゲに脈
おもるゼゲのひろき脈し
るく脈ゲよい表の部ゲ
つくゲん部ゲ脈ゲゲ　むい
人小ゲ脈あるゲゲ　むい
ゲ初あるひいゲ初ゼ　初ゼ
ゲゲ　ゲ脈ゲ　ゲ人の脈沈
ゲゲ　ゲ脈ゲ　ゲ人の脈沈
ゲゲ　ゲ脈ゲ　ゲ人の脈沈

[illegible]

○七表陽脈よりの
浮芤滑實弦緊洪
濇 [illegible]

芤 指にまろうふくらして金の中間
[illegible] 血の下ゝ[illegible]
滑 [illegible]
實 [illegible] 口傳

弦 弓の弦のごとくにして押すと
[illegible] 口傳

緊 [illegible]
[illegible] 口傳

洪 [illegible] 熱ある時の脈
[illegible] 口傳

○八裏陰脈の9

微沉緩濇遲伏濡弱
微 [illegible] 口傳
沉 押して強く [illegible] 口傳
緩 ゆるくとうとうとして [illegible]

濇 ちりのごとくして細くして血虚の人
よろこぶ脈形れいたるなり
遲 一息に三動の脈なり冷なり
伏 三部を指にて探るに筋の下へかくれ
指に見へずして動と積と分たざるなり
濡 ひたすらに細なるなり
弱 ひたすらの弦と押へるに陽なきなり
○九道之脈は陰陽和合すれども
長促は陽に余は陰脈
長短虚促結牢代動細
字八如此只外へ出るとばかりなり
長は脈のながれ出るなり
短は陽脈なり
短 指の脈小の字なり
虚 力なくいたもうなり
促 陽脈にてやはりながれ
牢 つよくながれると押へてもとまる
脈なり治しがたし
結 ながれてもとまりまたながれ
代動 ながれてもとまりまたながれ
細 ちいさくして治しがたし
動 ながれてもとまりまたながれ
細 ちいさくして
動 ながれてもとまりまたながれ
細 ちいさくして
動 ながれてもとまりまたながれ
細 ちいさくして

右ノ屠蘇ハ元日ニ飲ベシ

屠蘇紙ニテ包ル也

屠蘇紙ニテ包ル也

屠蘇紙ニテ包ル也

辰砂一匁 三分 半夏 乾姜
麝金 各九分 訶子 安息香
丹 甘草 八分 雄黄
麝香 龍脳 各六分
右細末して先ず脳麝を
と練合すべく所細末を入
右八味丸とし揚べし。小児大人
小児中風驚癇 卒倒癇
八乳付こし。但し血人の
產おそれ產ばかりおそれ

疫魂冊

痛小児の五疳五
八痢に洗点喧腦しい食ふ
ひやうくの病へも外も付物
陳皮 黄連 雄黄
麝香 熊膽 木香
鶴虱 雷丸 莪朮
三棱 各三分 大黄 酒浸 八分 胡黄連 生半 八分 訶子 黄芩
黑牽牛子 半 生半 炒 八分 訶子
犯香 桃殼

青皮 各三分 赤小豆 三十七粒 白丁香 赤小豆 三十七粒 甘草 二分五リ
右細末して麵のとくべの搭
ホクホクと合せ丸じて辰砂と
衣くべし

延齡冊

一溪老翁之秘方
ホリ一さんホー。ものしらに
ホー。ホカとつくしらもと
めぐもと。さんホく咽のさ
むホー。血のさらの病付
ホー。大術方ホリ
弱ホ用くべし
肉桂 縮砂 丁子
沉香 辰砂 草撥
白檀 各一匁 木香
乳香 訶子 蜂 甘草 九分
麝香 三匁 龍脳 桔梗
右十味麝香ホくべし
細末ホの十二味と細末
弱脳 蓍 ホ乃ちりとえり

乳香　研ぬく　煉蜜とかしとり
菊毛とへうくもとりつぶし
ゆにて煎とり　麝　脳　麝一つゆ合て
とりて後ゆ脳麝
うくもとり合せ蜜おこして入く
ろくとかして右の薬毒入
とり合又薬日ぬくくつき
合せ練りとりてぬりぬり
入封じ申し

丁子円　はこ薬の出ゆ　一つ　脳　冷
痛むゆれいくもし　酒とて
て後ひろひけゆ
つくもやくのつくゆ用ゆ
丁子　栽木　陳皮
乾姜　青皮　沉香
芽草　芎　砂仁　右八味細
末して蜜ゆく練り
百分金丹　一名万病解毒丸
各大一錢　金丹又ゆ金丹ま
紫金錠と名づく

ゆりくゆ　ゆ用ゆ
○ろん丸　末膠丹つ　清水
○一切のぞくけ　ゆ
万のゆくぞくゆぐ　ぞくけ
毒びくむ　ゆやぶ　もてる
う

山茨菰　二十目
五倍子　ゆ用
續隨子　去殼ゆて　清水
大戟　ゆ用
麝香　十目　十五目
右ものゆ細末
清水ゆ細末
三月乃佛　六月の粒
のりとゆ　ゆ用のち
ゆゆ練つくて分て　ゆ粒
湯ゆとり服　毎服　用ゆ
はこ薬の　午　陽七夕乃日
清水乃うちゆ
とくもゆ　ゆ合

[illegible]

豊心丹　家伝名方

又沉麝丹と名づく万病ゆ

用ゆ　人参

木香　丁子　麝香

沉香　桂心　川芎

白檀香　桔梗　車前

軟石膏　[illegible]

[illegible]

右細末一二年ゆゑに解

と糊ゆて丸し一丹と夜中に

十全大補湯　[illegible]

七物一切虚損の

人参　白朮　茯苓

甘草　甘草味甘絶湯にて

補気のゆ薬ゆ

当帰　芎藭　川芎

地黄

一切補血のゆ薬ゆ

[illegible]

[illegible]

十全大補湯と云十味

くつくつ

六味地黄丸　又腎気丸と云

熟地黄八両　山薬　山茱萸　牡丹皮　白茯苓　沢瀉

右六味赤蜜丸

神仙巨勝子四味

巴戟 去心

肉苁蓉 酒浸 天門冬 牛膝 酒浸

肉桂 人参

茯苓 枸杞子

蓮肉 猪實子

山藥 一両 天雄 炮去皮臍 無附子代

但巨勝子黒胡麻

右廿七味細末して蜜の丸

わく丸ど秋冬春の間

入くすり服とれば天

雄と去麻草と用ひ

通氣散 ふ方頭ぐ

薔薇 黄芩 沉香

川芎 各二両 茯苓 芍薬

大黄 右末し服と

延命散 胃強くすぐり

ひとつまんじゃ二日ぶい

ちくごつんじゃ

皂莢 芍薬 良香

丁子 桔梗 防風

巨勝子 焙一両 生地黄

熟地黄 何首烏

枸杞子 菟絲子

五味子 酸棗仁

破胡子 炒 栢子仁

覆盆子 鶏頭實

黄木香 蓮葉

右六味赤蜜丸

神仙巨勝子四味

ゆ服と腎虚の弱

ゆ晩と寒ゆ寒

神仙ふ西

髓とゆ

乾と寒

肌膚とゆ

ゆ盛ハ

月ろゆ

きゆ

ん冬暑ふ

ゆろゆ

筏苓　地黄　山茶
厚朴　陳皮　干姜
青皮　我木　三稜
胡椒　川芎　木香
胡桃　阿仙薬　草撥
胡黄連　人参

各細末して五味子用但し
さんせんさんそんじ又定命
とじいりあり

錦袋子　秘伝なる方

麝金　升麻　白扁豆
山慈根　赤白共ニ　五倍子　牛黄
麝香　木香　単槲
縮砂　白檀　安息香
乳香　没薬　雄黄
丁香　辰砂　甘草

右ら末のこりて丸ス
秘伝なる方
金丹小却り一切八
[illegible]吉功能悉く難産

和中散　なを秘伝
かりよりてうこうのつて方
そうのくすりもしものつく
ちくしゃうこうの
白木　陳皮
香附子
麝金　五分　高香

右粉末にして用
木香丸　秘伝秘方
ろうくのもしのつて方
ひものつくのつて
くすりくらんこうこ
くすりくすりこ吉
香附子　黄柏　三色
胡黄連　青木香
右つ味のりあく丸し用ゆ
木香散　秘伝秘方
金丹のつくこと
つぐのやうにこのつくこと
て大役いくさぐちうと

わうれんこのあまり
木香　槟郎子　青皮
白朮　陳皮　厚朴
枳實　麥芽
右八味の糊わく丸し用ゆ
枳朮丸　白朮　枳實
右二味細末にして仮
とつ　こしらえこのりとあり丸ど
おんぞう　ねりくすりにて丸めしの
ちゆのみく用ゆ○うこいろ
とものつくと清し　金ちくむ
又法ばとうへ　猪皮　松朮丸と云
脾胃とをやうす
清し　合ちとをむちうこ薬
香蘇散　家方秘傳
香蘇　厚朴　陳皮
茯苓　井草
右五味細末にして○一服に五分三分
中暑にうくらんとをやくらく
つしやと作ると

○雞肉出ひしくれ薬
けつとろ燒みしく鰻の穴
へ入れ油とをんてをれこふ
をけてうす燒あり
又いろれかう一夜漬と竹の
色〳〵ゆくこをけてやつ
うあつおと用てうす
つ　喉痺乃くすり
赤ごんやう乃燒方　吹入て吉
又あごの焼　一粒三四
ぐんとくの乃のかろく粒入り
けゆくふつやく服ちげとり
ちて赤あるこの焼と明ごん
と細末して用　甚効　薬あり
又明ごんと燒方　一ちおこ三
丁この　明ごんさうはいろおこ三
お細末して絹ふつくこやくそ
うこの薬あり
○肺気乃くすり
蘇ふろ角　英柏仁二ち

粉ふりておくふ合せ酢わと
用く吉痛ひ時ハ煎てとゝ
つゝてゝ
又麝香ハ黒焼ゝ
素一ふく往来ふ酒ふく
酢わと三百歩七月てゝ
○ゝゝかぶれのゝとり
枚ふとゝり付てゝ
又方一名備ま一丸一角桂一ま
一桂心一丸一ゝゝゝゝ一丸一耳多ふ
一白ふん　以六ゝゝゝ
いとゝべのけふきゝ
あゝゝ
○きゝんがう一切湿気下痢
山茱萸　朱目　當帰　黄蓮
地黄　人参　杜仲
茯苓　黄芩　麦門冬　車前
沈香　縫　又加減六味丸二分
一名冷ハ　桂心
右細末ノ千ふ服ゝ二七月ふ
用ルゝ七月ゝゝゝ一名ハ一ふ二
ゝハ八七分ふ煎ゝ二番ハ五
八米分ゝゝ三番ハ二盃入
米分ふゝゝゝゆ
やけどのゝとりふハ
一ふのゝの黒焼ふ
又ハ石膏乃ゝとゝ
ふく付
又ゝゝゝゝゝ
ゝふく付くゝ
ふゝのゝとりゝ
一ふくゝのゝゝやゝ酒ゝ
又うどんの粉付ゝ
わゝのひ毒
ゝんのやうのゝとり
一名牙乃粉ゝゝ
乃ゝゝふく一日ふ三ゝ
祝月ゝく祈妙知ゝり

歯乃くとりふい
一香附子一匁やき一七匁焼の塩
三分式二匁細末メ付てうう
血とめくとりふい
一ほけ　一月や福神
一くとべ　一匁やき
一とりのふいろやもろくもあてて四匁
山三味　ろくのり山そで
金色ろけのとミすふてろん
ゆうけうろうしの下ろんうぐ
さんくとり
一山椒末　内十五匁　内十五匁　内十五匁　内十五匁
生ふく　一匁　一牛膝酒浸
川芎　一当帰　一茯苓二匁
甘草　一匁

右ハ細末して一服づ粉
ろとりりと用しのとけろ
山椒末ふふハたの後入云
ちのふとんじ二番いあふとと
ふくのいり

山椒末ふと一日ふのとの汁一匁
ふたり粉ろとり一匁つ用水
ふとり一匁ず用てもうう
一ろぐれぐとうう　一ろやく
一中風　一ほけ　一ようてう
一ろうふ　一ひ　一上ふ
一ぐつう　一ろうと　ろうと血
一ろうと　一ぐろ　一けつろい
一ろけ　ろいろふ砂糖
万病無憂膏　家方秘傳
風やく湿気乃痛ろろ
じとうう一切のてとん腹のてと
とふもとかもつむ而ふ付
ろとれんせとうぐとふい
せとふ付ふりしやうぐ
ふい腎のとふ付ろつう
ふいまつとけろくの痛
ぐくとるけのとろ
ふりのてとぐとふ
内とろしとぐとふ

川芎　草烏頭　大黄各
当帰　赤芍薬　白芷
連翹　白歛　白蔹
肉桂　槐　烏薬　木鼈子各
槐枝　桃枝　柳枝各
棗枝　棗枝略　苦参
皂角加

右為末さゝ〻くろぐ後のゝ
どれ酒ゆ一服ひうちあけ
ゆ入なゝ大あくてんぐくとり
乃ゝ縫ゆ〻かゝ紙うゝ去そ
油だらりとこゝびてんぐ
瘤の黄毋と豆豉同入ゝ
せんぐ柳の角〻ゝにくゆん
ゆくゝとゆゝとひれまり
ゆ中ゆちゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

くぐろニハ藿香因豆冠ト加●くハ
●とろろハ椒鳥豆菓ト加●くハ
くぐろニハ木香訶子ト加●腹
いたむニハ延胡朔烏茱萸茴香ト加
●せんきの痛ニハ茴香木香三稜
莪朮通ト加●ふくしやう風
気ひひろつくくしりぐるえ
ぶりつこと熱ことろにハ烏茱麻黄
川芎枳殼羌活ト加テ毛ト行
気香蘊散ト名ク●ぬけ乃
気病ひこと切ひつくく
かさまりるるにわづしやあさ
月あとぐりめまひいらぐ
ことこやくとにいんぜんえん
どもに烏茱茱于姜ト加テ
せんじ用ゐと正気天香湯ト云
●小児乃傷寒ハ合ト云し
ふさとろの疾ニハ青皮葛
根ト加テ香葛散ト名ク

●流ト云ひてひろ
さとこやくとろニハ丁子肉豆蔻
ト加用ゐ外科切切
藿香正気散 急疫時疫
湿の気ニあわろ或ハひわく
のかくぐど飲食ぐこりろづ
きひひろくひ
うりいてぬけて汗出ざろ
ト治ト

藿香 陳皮 白朮
厚朴 半夏 桔梗 各二
大腹皮 紫蘇 自然
茯苓 各二 芽草 五分
右生姜ト棗ト せんぐ服ト
●くくらんぐろくろニハ木瓜ヲ
加●くくのくてこニハ芍茱ヲ加●
ひくてのくむニハ肉桂ヲ加○ふくく
つくてぐるニハ香附子砂仁ヲ加
魚肉のつくくろニハ山査子ヲ加
えの暑ニわろうニハ香薷ヲ加

●[illegible]ハ木香ヲ加
●中悪[illegible]
[illegible]目の[illegible]
[illegible]
[illegible]

本方ヨリ用ル眼赤目ニ黄連
黄芩ヲ加用テ奇効多シ

二陳湯　一切ノ痰症ニテ

百病ヲ治ス

陳皮　半夏　各五分
茯苓　三分　甘草　一分五分

右生姜ヲ入セテ服ス

凡ソ痰疾ノ類症百端ニ化ス
中疾証ヲ治ス

おあされい用ひ

ぐんとう百ぐんふうをとる

芍薬湯

弱く拘くり　赤白ニ
裡急腹痛　ぬぐ
大便通ず

かやかゆんそ

芍薬　三分　當帰
黄連　桂枝

木香　肉桂　甘草
右ヲ末ニシテ服ス又一方
二ハ大黄肉桂ヲ去テ枳殼ト
加ス後ヲ

そういさ

大黄ヲ倍ス

加ス

枳實　二分加ス　膀毒ト血ニ黄稍
二分加ス

ふ

ふ

ふ

調和飲　赤白痢ヲ治ス

ひ

てらし

芍薬　當帰　川芎
黄連　桃仁　各五分
升麻　黄芩

右煎ジ

ふ

ふ

加ス　赤白痢ニハ茯苓陳皮

香附子各〻加・痢病通利
乃茶と用て愈ざれば山査紙
到脾胃と調理とべし
参歸芍茶湯 痢病久し
日もつてくるしむ
くやうぞろふれども
芍茶 人参
茯苓 山茶 当帰
砂仁 甘草 陳皮各
右燈草烏梅黄連ヲ入く
服ス・合て六ふくの内
ぐらい胃口の拙
熱あり 連肉麸茶ヲ加・腹
痛て裏急後重ともに
木香槟榔ヲ加・痢に痛
あるとき熱流下とも黄芩
加て吉・下痢久敷止ざるは
心方用て気血を調書に
右三方ハ痢病と治するも
あり痢病のくしめる

芍茶湯と用く通利飲
久しく愈ざるに六味調和飲
と用く調和止ども
なほ気血虚弱あるべし
参歸芍茶湯と用く気
血と調書べし○脾胃虚
ちく膿血やまざるは
胃風湯ヲ用ゆべし
胃風湯 風冷虚して腸胃
ふ冷と成り穀化せざる
泄瀉しくるあり
湿毒下てあげれば
乃ちく成り瘀血とトスと
治とす風泻は大便
血ぐるり脈浮弦
人参 白朮 茯苓
当帰 芍茶 川芎
由桂 右粟と入煎服ス
腹痛 まり木香と加・浮痢
ふるとくぐるとかはり

湯と用ゆくすり・ふくけ
ふろうと下さば後をル
故ゆ白朮ヲ少分ゆく
木香槟郎ヲ加・老人ゆく
つぎどに二三度づゝ
ものむに三砂仁ヲ加・小児ノ
あげきれけのごとくあるハ大
文と下さば熱ス肉桂ヲ
柴胡黄芩ヲ加・婦人産
後三風ゆゑり泄泻ゆる三

如方と用てう

驅風觸痛湯

痛と治ゆる薬ノ頭
麥門冬二黄芩ヲ各
独活　防風　草豆蔻
當帰　川芎　白芷各
蔓荊子各　藁本各
甘草又一方ニ藁本ヲ去テ
藁ヲ加・ゆり痛ハ柴胡
生地黄各　紅花　龍膽

・ゆゑ乃のくゝ三黄芪二
分加・ひゆゑのの上すもの
かど乃肩痛ゆる
麥三天麻五分半夏山查子
枳殻各一加・天項の頭痛ハ
大黄一藁本五分加・汗多
ゆる三黄芪一人參白朮生
地黄各一加　そうぐ
一切乃頭痛と治と

清熱解鬱湯

心痛と治ス心痛
と曽脘痛ゆり胃脘くゝ
あづゝ乃ゝぐゝとらのつくも
山梔子二川芎　枳殻各
草豆蔻　黄連各　陳皮
干姜各　甘草三分　あるひハ
香附子一加ヲくゝ
生姜と入せんゝ服ス心痛と
治ゆる効験あり

槐梅湯

心痛ゆるひハ吐くい
くゝ吐くやひハ面てあろく

ちびっあり　乾胃虫

烏梅　山椒　枳実　木香　香附子
破仁　金鈴子　厚朴
干姜　甘草

右生姜とのせん服ス　心痛

ひいらぎ

五淋散　水乃通ぜざるもの
ちく出ざるあるいはまたるの
ごくあるひいなどのごとく
冷淋あぶらのごとく熱淋三
いぶり血のごとくあるもの
赤芍薬　山梔子各　當帰
赤茯苓三　白茯苓三　甘草

右水煎ス　一方ニ生地黄沢瀉木通滑石
車前子ヲ加　●気淋ニ
青皮ヲ加　●膏淋ニ　●熱淋ニ
加　●労淋ニ人参ヲ加

黄連ヲ加　●肉淋ニ　●連発ヲ加
●石淋ニ　石菖ヲ加　●尿淋ニ　車
前子ヲ加　●死血淋ニ　桃仁牡丹
皮　延胡索　琥珀ヲ加　●血ハ
血虚して淋とるもの　人参
黄芪　升麻ヲ加　●血ハ
りろくのうんびやうと治ス
主茅なり

補中益氣湯　中気ふ足
飲食ふうこうれ清
ちり入よわ　脾
胃やうくひいさ
えぐやせて目くぼ
ちてし茎く元気
脾胃　指ひ気血
黄芪　人参
當帰各　陳皮
升麻各三分　甘草
柴胡
白朮

右生姜棗と入せんス
●頭痛ニ蔓荊子

川芎ヲ加●項腦痛ニハ藁本
細辛ヲ加ろろくの頭痛ニハ
味と用テらくくしたく●くく
鼻ひりさあちろニハ白芷川芎
加●耳ゑり目さゞとわくとくい
びくさそひびいくさわわ
きこニハ葱白防木香ヲ加●口かわき
咽のくニハ葛根ヲ加●夏の咳嗽
ニハ麥門冬五味子ヲ加●冬の咳
嗽ニハ麻黄ヲ加秋も同じ●
春の咳嗽ニハ款冬ヲ加●虚労
發熱ニハ升麻ヲ去て地骨皮
五味子と加●陰虚火動ニハ黄
柏知母ヲ加そ外一切の症証
男子婦人小児ふるとかん
ふもりく万病と治ちの
ちくくちろしがてなよ
仙茅の名と醫ちくえ
ちくくりかく用ら附い百病
百疾治せどとえるの

婦人乃保産
婦人乃大節ハ懷胎産育
乃乃ふりうれいまと
きて一ちとろうハ人生秘
要乃邪憂信陽十分の
妙術人倫步月一の帝紀し
されいさゞしさとへまちく
ふわりて弟ちきを忘よい
ちまでちくちち河ハ脇間
乃みゞりまえのちふく
あちりまれてさいもの
ひくかりて命ちぐ紀
さくく病ちく紀ふ
わりくりくふ仁乾ふり
く富きれさくもちく
めでうしとのりつよいれ
程にわゝどれ懷妊ちり
ていちくつし仏祈
ちやまひ人ふ
ゞひどさいうこ

不孕のふる事ひめくふたり
ふるひ人のこと
ふるもれんぜんのりらく強し除
うるゑ安胎辛壁代称
ぐぐひたもれあり
生一胎胎のあるを知り
婦人月あるべきまりて胎
強弱とふるれいに三月とく
たたの尺脈とるにみぐれ
てでーかーざれば懐胎
の脈あり尺脈でーしくみ
れざれい強弱の脈あり

▲文川ちの来と一なりぐさの
ひんさーふそのひべー懐胎か
れるーのちもーしー
ぐーしりー日のうりう
くるりかくい懐胎ふわーび
うぐくうぐろねとくくろ
尺ちるべーしとと験胎散云
▲文月とくくり月とくくれ

ろ紅とゆくくくれ
くれ郎ゆくくとぐさと蔵
しれ毒ぐのひべー懐
胎あれい腹中ふくりふ大
ふつむ痛ざれい脈三脈ス
婦人懐胎ちくくい脈精血薬
くくりてうぐい射ーやく
とくくきくくしーやー日邪ふ
ぐんじて結毒やぐりやー
ふるいいさくりぐ定合ーやに
とくちくりーさとたとに
とくふくいくりふふふ
ふふぐくちくくくくくり
ぐくちくりゆくくくぐり
らど胎内ふみぐりひぶ
るり初月ふい白赤のぐー
二月ふい桃花のぐー三月の
胞胃ふのとぐくとくりく
更合ちりくりみぐりゆくぐ
くくちりて月れかくふ代

[illegible]

[illegible]

[illegible]

香附子　甘草
右ノ生姜葱白ト煎服ス○一方ニ
人参ト加ク乳香乃ト木
用ユ・胎丸ハ芎藭ト加フベシ
ヨリ心腹脹痛ニハ木香ヲ加・
嘔吐やまざるにつりうん茯苓
白朮半夏宿砂藿香神曲
丁子ヲ加・胎漏下血ニハ熟地
黄阿膠黄芩白朮砂仁
艾葉糯米ヲ加・但シ胎漏
下血心腹のさむさニハすみ川
芎当帰各五分ト酒ニテ
煎ジ童便ト入用ユ一
服あく利やむし・泄瀉
おゝ白朮茯苓ヲ加・小産
もろくれいかゆて右乃胎
漏下血の加味ト
葉ト除ク用ユ胎元
（裏）
（朱）
（墨）
（青）
（皮）
（良）
（姜）
（半）

夏茯苓葛根ヲ加・面目
そうそうおゝ熟地黄茯
苓沢瀉木通黄芩山梔子
麦門冬厚朴ヲ加・口つく
みくちとくるしそれをもして
云語ごろくもしれず生地
黄芩半夏茯苓麦門冬遠
志石菖竹茹ヲ加・大ま
らいさむらん破胡子茴
香杜仲ト加・こゝろくこて
八九ケ月ふいりてい枳殻
黄芩白朮砂仁ヲ加テ
りども見へ一雑麦芽の
ゆ多　毛ト達生散ト
云ヒ外臨脂乃うちふさ
まくハ病とあう或ハ
白濁さいけつん乃ひやう腹
ハいこと大使りつ一中風
強ゆ寒がいろうやうの症
かくく活病のいろくあと

右乃和気散かくのごとく
と用ひ　こと〳〵く濃せ　ごと
とくちゆうあり　〳〵くふ
ちゆうしてなつど
○婦胎乃うち含ねこれ
一ふ　一ゑんせん　一天ひさ
一ちくび　一あつ　一くらまち
一ごがつ　一天こん　一うこん
一ちと　一ひちど　一あさこ
一せり　一ちど　一山のいも
一ちゝげ　一ゑ　一かきつ
一ひろ　一かん
○月ちんり
一ちゝ　一あんど　一なし
一むめ　一ちゞこ　一くるの
一ひとり　一まめ　一ゆめ
一すり　一めんの　一くるの
一ちそ　一ちんぴ　一ちさび
一ちも　一ちと　一うこぎ
一ちれち　一ちろ　一いね
一ちゞこ　一ちけのこと　一あゆ
一ちり　一ちび　一ちめ
一ちに

ちゝのみのうち　藤のゆとと
月合ちれば　ちゝ　癌ちと
一ちゝと　合ちれば　ちゝ
ちむちちさ　ちも　月か
一方ちゝ　ちゝ　ちと　ちゝ

痩胎散　胎子肥ぬれば　ちゝ　ちゝ
うちちゝ　ちと　服ちれば
胎ちゝ　ちて　ちし　ちゝ
ちんめ　ちちり　ちと
ちに　ちれ
枳殻　香附子　甘草　各一匁
右三味ちして　ちゆ　ちと
又　枳朮丸ちに
○ちんやにひひて　ちに方
ねむまう　ちり乃月へ
南ふむひてちし

[illegible]
西北の方にむかひて
[illegible]の日は
東南の方にむかひて吉

[illegible]

○月ふしちの日 さうの方
正月三月 七九 十一月は
ひのへ とのへの方より
二月四六八十十二月は
きのへ うまへの方さんぬの
ところを向つくくしう
又あるをとはきめてう
○[illegible]

[illegible]
わるそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

右ひんぜて温服す

催生散 雞子殼 乾姜 白芷 百草霜 滑石等分

右細末して芎藭湯にて一方二錢半入せん

芎藭湯 血の通方あり雞子殼ふとびまれぐるくるかくらべる脇中小腹一切の脇痛

と腰ぐと血さし痛一切の脇痛

と治す 當歸 川芎 七日

以二味と四貼小分一貼小分二杯入て煎じ乾して酒

一杯半分入四分変ぜらるるを温服とべし一日とひるどいわ

けくのまとべし二時ばかりそ

よのまも四服とるかの用ゆべ

利ちとがつりとがつりふうもん

芎藭調血飲 よろこんで

ろ法方と治ちろ乱ありり

右乃芎藭湯小加味ろ

よくよくかくんして可用

當歸 川芎 芍藥

熟地黄 白朮 茯苓

陳皮 香附子 甘草

右生姜棗と入せんじて温服す

独養ふのごと服ろは

者依一倍好酒煎入服

とべし別に藥血とめ

熱と退くるの作のごとし

●養ぼふくくこころ

ひぐる三ハ荊芥ヲ加●發熱甚ろ

ろハ干姜ヲ加●口ふくく咽乾ハ

麦門冬ヲ加●熱多ハ木香

黄芪ヲ加●腸出ハ

人參黄芪ヲ加●咳嗽ハ五味子

杏仁ヲ加●血ハ血痛ハ青皮

肉桂ヲ加●痰と出ハ半夏貝母

と加・嘔吐やまざるふハ宿砂半
夏ヲ加テ地黄ヲ去●しわ色赤
わせニハ黄芪酸棗仁ヲ加・池浮
ニハ黄芪千姜と加て地黄ヲ去
●虚血めくらくび心腹わとそろ
痛ニハ肉桂蒲黄五灵脂延胡
索牡丹皮ヲ加て芍薬皂角去
●血とそろ多ふ
一眼くらくらとしたハ
芎人参千姜ヲ加●腹そろり
くぶのうしハ宿砂枳實雀子
厚朴ヲ加●悪寒ふるふハ童便
ぶるふハ益母牡丹皮ヲ加へ童便
酒とわ一個へ服ス●血太ふ下
りとくやまざるふハ
黄の豆湯湯ふく個へ服ス
●小産のち心腹痛ニハ白朮茯苓
とそて延胡索牡丹皮桃仁紅
花青皮沢蘭と加●終る時
狂乱して精神定

血乃米砂と多服ス●驚
ぐくり入酒中く服ス●驚
悸症仲とくぬとぐろ
しかさらづして辛ふ
絶入とろニハ遠志菖蒲冬門冬酸
棗仁と加へ用ふ乃ハ
產後ふ付くくろ
証とあくくと付ふ
かぐんと用く服とろ
產ふもそ通りふ

安神散 或ハ朱砂妙香散ニハ產後乃ち
又妙香散ニハ產後乃ち
付ふ
茯苓 茯神 黄芪
表志 桔梗 人参
山茱 木香 辰砂
芎藭一分 桔梗五分 辰砂三分
右末一服ニハ酒ヲ服ス
●產後ふ血虚してんふふ

一驚き怪怖
生地黄　當歸　人參　煎湯
用ゆる後加へ入るもよし
麝香　如意丸
男女共に症ありて
用ゆ　神切丸

黒神散　産後ふるへ寒熱
とゞまらぬ血崩
くいて血崩血暈
とゝまる　黒豆五合　桂心
熟地黄　當歸　牡蠣
干姜　炒　芎藭
蒲黄　炒　甘草
又一方　蒲黄
とゝて附ると
右末　毎服一匁
酒にて服す　但し
○うんどれ食ふ
一匁　一ひら
一うのさ一ぬさの
一ろけ　一七ぬさ

○うんどいわ
一ぬ　一まろ
一そ　一いも
一えん　一ぬ
一山せう　一三せう
一蜂　一さけ
一を　一ぬ
一ぬ　一ぬ

○小児乃保養
小児延生第一方　小児
生まれる時産
ろとりてあ
けふ入を大ふく
ちくろく
地のふ
やはとろ
ちひ大どく
ろう
ろう
産後の目三分
乃末と二合
脈破一分入
とり合生

芎藭湯 煎七分でつゝのめ

せんじ方 八くらい 腰痛 底仮八

三味とゝのへて児乃あさごに

ゆり乳母乃乳ぶさふをつけ

あるひは児ふのまゝにして一日

八らふあめ ごとのこつくさ

ちびべ ちろ 吋八脇毒の

悪血大位 りぐりてゆず

く疱瘡乃 このめ その

外 ろくやまひのれ

て命ゆず 小児発生井

一の作方 して伝まる

ところ ことゝ つ

五香湯 小児ふ ふさし用く

薬 ひ けと ちら

ひ ゆ の方に

丁香 木香 沉香

乳香各五 麝香少

そして多 離八

ちれ大 ばふ 湯ゆそ

ゆり中 用ゆ ゆづき乳

とわ まと 薏香 香少加 麝

香と去 湯 ろ小八 多少

加 一方 本方の丁子と玄薏

香連 竟 とのく 少加 毛とふ

五香湯と名づく くさけ 三吉

加味五香湯 小児のくさのさ

名も ゆとされ めを治する

これ とのくすり

沉香 木香 乳香

丁香 薏香 升麻

葛根 連竟 路 木通

大黄五分

右 絞ふつて 熱湯ふあり

中一用ゆ 人小児 絞

方に 花裏の

ふ ゆし 和 香ふ黄連

青皮 茸 如 常ふ小児

ふわ ひか 吃

遊[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

傷寒四

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]く[illegible]と[illegible]く一日[illegible]
[illegible]腹せ[illegible]
朱砂　四五

寒食麺

右各五分

三月の節ふ入一日あの日と寒食日といつてこゝ日麺形とる
ふふうとぬ酒ゆ[illegible]
所のゞ肉一帯の麺形と包
[illegible]して分のはと
[illegible]と用ゐと
[illegible]
[illegible]
[illegible]と膜と
[illegible]
[illegible]合麺の形と
又酒ふ[illegible]て[illegible]
[illegible]熟[illegible]
つ[illegible]て森の大ふ丸じ
[illegible]の大ゆとうり
かゞん[illegible]て用ゐし・水形感

昌[illegible]熱[illegible]生姜
[illegible]の煎湯ニテ用・肉
生[illegible]の飲合ふやぶれる
菜乃[illegible]ニテ下ス・[illegible]
の痛ニハ[illegible]
ふくせんじゝ[illegible]汁ニテ用・
●[illegible]ん吐泻ニ[illegible]
●青蒲ニハ[illegible]のうぶ
●白蒲ニハ[illegible]の汁・赤
白蒲ニハ[illegible]湯ニテ
●[illegible]汁
●[illegible]の暑熱[illegible]
冷[illegible]・[illegible]出のつ[illegible]ニハ
苦楝根皮のせん[illegible]
●[illegible]ニハ[illegible]乃[illegible]
●大腹[illegible]
●小便ふ通[illegible]
ド用・[illegible]
が湯ウ・●[illegible]

薄荷湯ニテ下ス

●そうのいさしこのやうな湯
を外一切の万病ニハとくく
ものうらもこうこ

○万香奥これ

▲無香し方

麝香大　霍香中　一千香大
甘松中　一沉香　一白檀大
一菖蒲　一山橋葉小

右八味何もわりくと刻ミ入

▲同方

甘松大　一麝香大　一白檀大
一樟脳大　一千香大

右十ぶんとはま丸ニ三つ
ゝりとりそこと甘松
ちゝ丸わるいひげとりて
ゝびのこゝろ吋ら
白檀ゝ細くこゝ
酒と巻ふ一こいろ

▲これ物の分　四季共ニ

一沉香大　一千ゝ　一貝香大
白檀大　一薫陸大　一麝香小

右ゝ味ひゝ
ゝのまと焼こ
ゝ味ひゝ
蜜ふく練り合焼
入ゝゝ合て蜜ふ入白茅
乃中ふ三十見ゝて丸出
ゝ

▲同　練乃方　薫物

一沉香大　一千ゝ　一白檀大
一薫陸大　一麝香大　一甘松小

此合セやう右同ふ

▲仙人方　薫物

一沉香大　一千ゝ　一貝香大
一薫陸大　一麝香大　一白檀大

右ゝ
ゝ
ゝ

▲梅花香　薫物

沉香十匁　甘松二匁五分　麝香五匁　白檀二匁　薫陸一匁
丁子九匁　貝香五匁　塩一匁
右蜜三匁ねりまぜ調合もろ〻

▲同方　薫物

沉香四匁　丁子三匁　薫陸三匁五分
白檀廿五匁　貝香二匁五分　麝香五匁

▲野風　薫物

沉香四匁　丁子五匁　薫陸二匁五分
白檀六匁　貝香五匁　麝香五匁
甘松三匁

▲在明　薫物

沉香十匁　丁子三匁　白檀二匁
貝香五匁　薫陸五匁　麝香五匁
白檀十七匁五分

▲氏郷　薫物

沉香十二匁　丁子五匁　白檀五匁
貝香十匁　甘松二匁五分　麝香五匁
右薫物以上

▲兵部卿宮之方

麝香五匁　竜脳三匁　甘松二匁五分
丁子九匁　唐ノ上三匁
右雷丸の地ふく

▲透頂香　外郎之方上也

阿仙薬十二匁五分　甘草七匁五分
白檀七匁五分　石膏九匁　蓬砂五分
竜脳一匁　麝香九分　甘草九匁

ヒハ〻移りつゝ葛の移ひ一
八くろくろふ黄柏の皇液三匁
九ところ叫ふくるとこのもとを
ぬりかくろくろとこの九下へ和ひ
らぎくろ叫意くるこの油
ふくはやと付くあり

▲同下方

阿仙薬五匁　竜脳四匁
麝香三分　蓬砂焼八分
右甘草の煎じ汁三ノ煉也

○婦人法のうつ初之薬

女人髪をぬぐのしかた

側柏　指の大さ程あり一種矢三ツ

胡桃　矢三ツ　右三ツの油に新

水にてかしらをあらひてうるおいすべく付

てうるおいあぶらをとりのけ

こしらかをあらはしゆの花のごとくしぼりくもれば

かをあらはしつるゆあり一男女

女人みめよくする法

髪の方　そげさるわと

ふかさろ生ずるくんりと

生姜　鳥雲油と名づく

秦椒　白芷　川芎　各等分

蔓荊子　零陵香　附子　各等分

右各生ずく細に新を絹

ふくろにもつてこれをのりの油に

共一日ひとつ五一日ふたつ

しげきあるべしいかにかに

つくさるあるべしいかにかに

髪生ずる故ふたつ月の後

ずくみずくもつてこれを

用ゆべし

又素白皮　ともにせんて

かをあらはば髪ながらに

女人みめよくも男をみめよくも

髪のあるとあるとにかに

切ともに方　白芷　各等分

藁本

右細に油にて練みて

髪ふとりぬりて

みさかをとられかをあり

とれづくしとるし

女人のかをみだらるとあづく

ちろ方　棗の木の根の赤

へひきさるとこの人とりて

きれとふとこれにぬれて

女の切らちりぬけと

とり髪ふりろえしとかうち
ありくかの
又女の髪乃とらと油ぬく
せんしこう猫の疳ふかう
やくのとくふりうるとれ
かしたれの別かくかうし
姙人面紙とあしとの雪ふ
金瘡高中　洗面八百義　白牽牛子
丁香　白附子
白芷　白姜蚕　白蒺藜
白茯苓　白芍
右八味皂角弦と荳豆
しんを粉ふりて絞るやく
もく面紙をとわくへば
教ふと白くむ洗八ごく
光沢ろくくしたとと年
とうとうとうわこ油やうて
つくこうこうこう
姙人の扶胎付ろ
てろうかとう

杵節と焼灰ふ
石膏一両研末一二味と
合一ちうふ井面よ
ぬるかり一月のうち
蟲ちろくゆるゆ
但一両又辛の
門め童　砂糖と面
ほれる丸ふ弟
とうとうの方
丁子　木香　黄蜡香二文
荳蔻陵香　耳松二文　茅香二文
香附子　當帰　白芷
桂心
槟郎各　麝香五分　益智一文
白豆蔻二文
右細末して煉蜜ふ練
ちくつき合指桐よ丸大さ
常ふ五丸て用ふ中より
効とうとくく毒
ゆとえ月ふとく分かう
くて十月ふとく長ゆ

[illegible]

○[illegible]乃薬

一唐蠟　五匁　一胡桃乃油　五匁

右乃油ヒとくせんじ杉花乃蕊汁乃けりゆて練ふるとを入ゆくせんじ布ふくこうとを

ふい麝香竜脳丁子白檀茅松ヒとく細末して入し

○伽羅乃ひのあし

一唐蠟　五匁　一胡桃の油　三匁

右乃油ヒ湯乃うとをふへふ

入くせんじ油乃表とぬく

秘結ふふうれ成二粒

入くあぶくあぶ乃ごくく

ふるとを布ゆくうら流ふ

ゆくうくうくてうくうう

油乃中へ入りゆふ

油乃表中ふでまりうと

へ度ふ流うあり

○牛乳乃薬のうり

[illegible]ふへ乃どくゆ効七傷

肢痛　痛乃病のり

當帰　桃仁　連翹　各五匁

漢防己　独活　羌活

防風　茸草　炒　肉桂

沢瀉　大黄　黄柏　酒浸

右末ふ毎服　五匁酒ヒ煎

水ヒ煎入くせんじ[illegible]

ふうせくあ

ふふくの膿毒乃用

あぶとうくうくうくられ大ふ

あうと治ヒ

雄黄　川椒　白芨

白歛　官桂　草烏乃

芸臺子　大黄　白朮子
硫黄

右末とし大匙三ツ麺粉
大匙三ツ酸一盞とまぜこね
熟し　脛痛　ろうそくの煙と治す

ろうそくのこのひ　知母
革薢　黄芪
玄参　牛蒡子　馬兜苓
升麻

右末う等分毎服廿匁て
漿水一升ゆくせんし一用
る脾とやぶりうちこん
厚朴の皮と玄末とし生姜
束と日じらせんじ用らびら
らふくみてふ含ら
みう
ら毒ふかあてられ口中ふ
あとしたりくたせんとと
らふい　白九なる
右細末うきあわせるの

ちくとめうべしうるくへく
ちくとあるこの三本
ゆくせんし一本ふのうく
用ふしうふ
ろうそくの風と治す　白附子
天麻散　天麻　川烏
蔓荊子　半夏　川烏
麻黄　乾蝎　烏蛇
硃砂　水飛
右末う毎服三匁硃砂の末
たこうたうの豆淋酒
ふうの用るの風病と治す
○牛ろくろう
牛ろ病とさらしいの
五八草　まひのこらやき麦と
こしらへくやきぬらゆ
ゆくのまし
牛疫病とろうくの乃
うごうとと時色豆二粒とう
いうどのご海のたのつ

水まぜ水ハ調和して用ひ

○名酒乃造りかた

豆淋酒　やうくろくの稗こと
とき火ふうけ炊程あけこと
やうふやしてあけ
三合入てまぜいれ
分ハあてまり半入時
あげてうくる酒しぼる
ハ漬七日ヨくもめとう
てとうろくもめとこ
ふうれハ炒ヨてヨ
浸茅酒　ヨ程　一上白米五斗
酒ハ入一日ヨハ
ハしてくさまとこ
一ヨ　幸但一日一度ヨ漬
ひして搾ハ絞させ酒ハ入
おハ一ヨ程ハ紙ハひわげく
ひやひ　一水四斗
右乃飯搾ハ絞ハ

入下かくくりゆ付入ハ中
るハ上ヨ付入切ヨ
入時搾ハ飯のヨ
ヨ上かくるとつぎ込飯の
ぐるやうふるひこつかハ
ヨ平地ヨ七ヨ程ハ
ふくくふくくこふ張ハ
てくヨヨ上ヨ
ふくくハあるぬ風ひの下
乃日吹ぬくおくしきの中
ふるくくて米斗六月の
用乃内ハ民ハるくくハ
いろハみぐれけ

同方　肥後　一上白餅米斗
一上白粳米斗　右二ヨハの
乃稗ハ入色の内ハ
あくハ初ぐんのあくて
めハあくくまくヨ八月
めハひのごくくして飯ハ
ヨくく但餅米ハ

おくにはりこめかんぶ
ひとかり 一上白米六斗
一水 六斗 但さんせん七日ほどつけ
あらし併米のあら三斗 穀米
乃あら三斗あり右乃穀と紙
合穀二石のひ一飯と入こと
こまゝ まゝ切揃ふ入くくり
合せ一秋五日目ゆく
つくりつくりかんこれ十飯の
まゝ分るつぶれさるうす
それより七日ごろ一日ふ二度
三度づゝもみくくこと合上下
へかきまゝして暖かろ一ふる
五ごうう 穀八日めふつ
ゞふ入板ふくふ紙し
ことこふ紙ふくくく
包温気の入ざるやうよ
いうこふ埋こ米年六月
六月の四ふとわくり
色後絞りより味わくく

恐冬酒 一焼酎七斗
一上白併米四斗 二斗かるに
一糯米 穀三斗加一白いづく穀
三斗加 右糯ふくもこ蒸ふて
もうくこふこふふ成しこ
ふとこふふくふくく包七日ふ
くふふこふふこふすぜく
かのごとくくふふこふ入
旨ふかき納るこふ千日ふく
ひとわくべし

蒲萄酒 一ぶどう一穀ふ
けとくくこふ
絞ふ入炭火のごとく
ひとくくこふ
ふる時焼酎ふくこまゝ ひく
ふくふ三分一穀加べし
ざるかとこれふふ一
ふるく 一竜脳四のごの
ほとこ去焼酎のゆ

みそ漬二七日程漬て魚ばかりを
ふるくふき出るしを吸物に
用ひとれば布にてゆくるし
ぶりかとをとれるしたの二ちを
とんぶりをみずにてさらさらと
ふるくふきりさるとたのこ
とくこれを引くみつがに入
魚はいれのりともおろし
著蕎酒 ゆのいもはどとり
あげさゆまま程ふるを
入鍋に湯をとろ〳〵
湯をつけあげさ素三ちを
のむ程魚をまくあげ熱
とろ〳〵 魚をまくとく
とりひえさ酒と入移り
酒のやうみのぞろへ入魚
ものびくかんとつ
出とも五日程もり
素乃気のけ一本
くものくしとりぶ

一布ゆくこし揚に入熱
ゆくとりまくさいたるし
入法とせんじとく
清酒と合ちる
清酒ちを木一合ゆ
布の酒つこいい酒さ
ちる一日ざう一ぞ一酒
酒一ぞわりゆそも
布ニちを揚ふ入大のとゆく
かんとたいぶ白さ
ちくこけろ酒ちて
ちくさまこ広乃素酒入の
ものかまぶろ
揚梅酒 揚梅と一粒づ
布つぶ布ゆくこけと
ちゆ揚ふ入をこゆのくろ酒
て一ゆちん白いくさ
酒ゆくもゆこりゆそも三
分一加へ入清酒ふこと
のもも一ゆちんぶくさ

一右乃酒へ入て煮ふまぜる
事度数ふ入三日過てつぎふ入金
とりとめ置てつぎふ入金
ありおしあく色とりわれ
い酒そんしてとりかゆとり
とくとられい三年八ふ扶

枸杞五加皮酒　乃方

一白米　十石　一扶　四年
一水　十石年
一白米　十石　一ツ　三年
一ふ　三年
一白米　十石　一ツ　十石
一ふ　三年
一白米　十石　一扶　十石年
一水　三石年
白米合十石　五合六石　三石扶
右仕りやうは常の通り
一右乃内へ仕有ハ上ゑ
而目入加ハ
右二ツの米を扶用入ル
右やうの酒

狗脊酒　狗脊ふひ一ツ
洗ひ常乃如く
上ゑ
てらけぬやうにふり
酒つる前二ツの米
湯乃中へ入をまま
酒ふ
常の飯ゆかんへ
さゆ
なつ
んたれ
三度の米
まぜ
ふく
ふつ

鳩酒　一兵鳩の皮
一ツ
外の
て
一山
ゲ

小豆壱升七壱升程へうくらい
合せさらくしとふく半とも

山川酒　一上白米　糯米　二斗酒
もちのとくくらくひと
一白糀うるし　八キ　一水　八キ
右三ヶまゆ入くかえ
わるゝ一日ゆ二度づつかくも
ちくとえたる時つかゆもも
掬おくをもれてふるをして
ゑもし大あわ出くはふる
るるわい出るを時とえたあ
ゝるもしまたえたるゆすりる時
上白米　三斗　右のごとくひ
しかうし　八キ　入れ八キ又
入るもしはるへりけとく裏い三
日程中くたるさう裏い
とえた味出る抽もそれとき

醸酒　一上白米　餅　一キ
かくとりとりのとか加くらい
わるくとりとりのとの

めしのごとくひうしうるうし　白米上かりしうるさ
一かうし　一キ　板の白米　一キ　山内へ三ヶ一程
一ヶ月　一キ　山内へ三ヶ一程
酒と加へ又酒ゆ合ゆ又合
ゆくく一キゆとしろくゆ
乃中へかうしとひうし
一枚重くゆる日ゆる程
つくりとゆへくえた
出るうし同ゆくわかうし米
乃ゝぐふるのびまでも
出るやうゆくくりとさそ
かくとうはそ中へうと
めとゆこむしは酒ゆの
うらゆ絞り絞出米ゆこれ
絞へ入絞ようゆがゆ入
い米　年乃友ようもとも
ようゆの酒ゆうくゆへ
用る時ゆゆくのごくゆと
して絞りゆ新ゆく
ゆ絞りてもうゆ他り抜

[illegible]
[illegible]の醴酒のしかた

同久敬丸作りやう

一併米を水[illegible]の大[illegible]引ふりて粉とする[illegible]
[illegible]ものの[illegible]ちやう[illegible]
[illegible]よくさめ[illegible]
一糯 二升 一麹 二升

[illegible]じとあふひ[illegible]
あふひ[illegible]
[illegible]と入れ[illegible]
[illegible]
あまざけ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いり酒のしかた

一古酒 三升 一糯米 [illegible]合

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

えろう呼みへふりあ
し右乃ごゝへこゝ海と云
三度ふゝ〳〵ばゝ〳〵
ざけふりあり
かとびのり酒の二の
一酒 一年 一名 一酒法 一名
一うと漬の茄子八 茄子
大ゆう八二ウ 中 ゆう
ゆとび原サ二分 行
小切あゆく こ間と上 漬
わしひ右乃 三ろ二あ色七
合ふゆう行いう ゆり
糟漬とりさけの方
右酒 一年 あまあり ろ 酒
昆布 三年 糟 一うん つう
右うんべう 細 刻 昆布
乃ろ まるろ ぐ ろ
ぐ えんぶ乃ろ ま
揚 ゝ ふゝ ばせ 行
右乃酒 一年 入 ゝ

りぜとゝ火のよゆくそろく
ゝろゝ なの酒 一年ふゆの
行ふせんゝつてゝ
塩ゝくゆいあゝ
ゝへゝろゝ

酒乃あひどさまれ

一ろゆ乃大きゆろ とはと
ひゝろゝびゆろ あてゆ
焼 ふへ ゝ ひゝ
きかゝ ゝ ひわゝ
てゝ右乃ゆ のゆ ふつけ
え ゆ ゝ ゆ
うゝのゝゝ ゝゆ ゆのゆ
つゝゝろ時 ゝ 日 ゆ
粉ゆゝ ゝ ゝ ふ
酸ろ時 ゝ ゝ 乃 ゆく
右 粉 と ゝ 一 ゆ 行 り
ゝく 魚 鱗 ゝ ゆく
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
右名酒 酒 酒の方終

味噌納豆の搗様

御前味噌　一大豆を水に
石白あふ一和つけ
とすれば水色ぶと入れば
けくさとうとうむしこ
みれば耳をぬけてきろ
一麹三斗　但中白米と用
一塩三斗　但色れ内より米斗
とを五三塩二斗三合入て
一侍米一斗　中白米こは飯ぶ
ひとつ麹　右乃ちあ紙包
ろ時元出一つほのとくく
つをて板ほとつき合一和
風ふあて明る日一ふぎりて
ふあて一日二日ほ風ふあて
を度米力ふく神に切ち
びふれ入時又時ふく紙く
つありいもぐあれけいらば
ろろろうりけ

ろ時ふありろ時桶へ入桶
乃中へとくくつ上ふ
紙とをふく五も右の塩
乃外ふ一切ふ塩入ろろす
三十日程ふくあろくあり
おつ切くあとあろ色の内
ろ明る年ふとくく

早仙りの方

一大豆を水ふくあ紙ひ
けてとふてもくあろ
時大とり一和をまく五入
明る日大とあろ入れ出
つくし一かうしをれ
右乃ちあ乃塩ふろ内こつきま
ぜあふ包塩ふあふ一和あて
しま日ふくも五
ふあふあつとふあり
一塩ハ二合五合　右塩と海せく
をまつあひてとふ内い
塩とまぜくつき桶へ入

[illegible]日ゝりつゝ[illegible]
[illegible]ハ二付[illegible]
三十日といろんせと
だうごんろの方

一大麦三斗ゝつゝさて
[illegible]まめ八斗おーいりて[illegible]
右[illegible]と[illegible]小豆
一日切てゝ[illegible]
一[illegible]一斗 一[illegible]
の中[illegible]
ゝて[illegible]二日程さまし[illegible]
[illegible]
入く[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
[illegible]

一[illegible]山椒[illegible]
[illegible]
[illegible]
二本山椒二本[illegible]
[illegible]
[illegible]
一白ごま二本[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一山椒　一本　移植つき合

吋まもろ　一株三本

一水　六本　右株ゑ三ゑ合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つき合ゑ交植ゑ

[illegible]

六月末用ふ

おふこうらく豆

てくまま　ふくらこうらく

濱納豆

白乃上大豆　三斗

[illegible]

[illegible]

日ひとつ宿ふひとつ

うどんの粉六本ゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一大麦　三升　粉にして
右のもちあわ小麦　白米
かうじ小豆粉さと
一塩　三木　水六木一の
さまと右の大豆三度の
塩あわ合せ揉小入五七日ニ
一度づゝ三度つゝそ三七日めく
小漬山椒　一ちゝ
さ味入絞あわ粥し付ま
四十日ぢうゆくうし仕
そも仕ぐもむゆちくか
ちくあり

ひしほの方

一小麦　七升　粉にして
一日一粉あわ漬ひと
一大豆　三木　ゆして粉ゆと
一併米　七木　ゆして粉ゆと
右三色よく混合かうど
小よく粉を粉にして
ふくに二日程日に
よく乾ひ乾ひ
一塩　三木　水　七木
右乃塩とあわ
命一　右乃粉とも
ぐめいはゆくよ下へ
さ味の極ゆくゆく毎日
かくべ一日に
麦ろ沢七十日程ゆく絞
ゆるくこ度ちこと
二月とよう

○石併乃仕やう

ちりちり

あわちゝ粉ちゝ
絞ゆくふひ色ぞ
併米のこ二分一
ふちゝせひちゝ
阿ゆくつきあげ
まあのこ仕くも丸
ちゝひりちり

上白乃併米

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○菓子乃部

羊羹 一小豆一升 たゝく
にくもりあゆくう
とちり神ゆくゝ
ゆくう 椒みかの
いさをうんの袋ゆくこが
風ふあを 一こげの粉二合
一枚乃粉一合 一指ゆ
右練くもを合もり神に
く練もりさく 餅ゆくゝ
二回三回 餅ゆくゝ
ゆく濾とやう
あんふもを練りと合さく
せいしうゝ布と二度あを

ゝくゆゝ上ゆを布一度
豆むしもんひ
まりと豆ふまめくらぎん
ゆゝへゝ河ぐんゝ一枚
さ布ゆりゝ
四三分一ハ白さゝ
ぜさるもゝう

落雁 白さゝ
くふ入湯ふゆりさゝ
んゆくゝたゝ
一滴たゝ
ゆひゝ
乃けゆくゝ
いやゝゆこゝ
花ゆりゝ
ゝ木乃ゝへ
乃ゆゝ
木のゝゝ
ゆくゝけゝ
ゝと二つゆゝ

河豚茶漬

さてさてうまそうなものかな
ひろくかへしたるうんかあてい
ちりとそれかとゆうしてあ
どれい孫ばりもるとてこれ
付あへ入ちぎはくかんひへい
さてさくいはくるれもを河
狩ふ入ちさんかくるくく
海一俗乃ちくくふちくく
ちありさるぬくくりの
どーくとちとるやうあ
いーいへいろいろ白くあるの
ありいるやうもんとの
ふるーふくあるもふ水
さてうゆくまるいれ
ちてしげうろ

一白さてさて百六十目三匁五十文
てうどんの粉さまま
右狩ゆくくく

[illegible]方

一白さとう三斤一水二キ

太綱揚ゆく一あわせんべい

ゆくゆくこし揚て絞流

太乃揚へ入又とろ火ゆく

味ゆるゆるゆる程せんべい米の

酢ゆるこしにて七分程入一味せんべ

とろ結めりまんゆ八分め程

入又一味せんべい煎米三六五

又ゆる程ゆくもり入ゆく

ゆくゆく三人もゆもり揚乃

底にゆゆ付ゆゆゆゆゆゆ

つゆゆゆゆゆゆと程かゆんの時

うどん乃移のよにゆゆ

ゆくゆゆゆゆゆゆゆゆ

時切ゆり

ゆゆゆめ乃方

太ゆゆゆ乃ゆゆゆ一大麦一キ

亜又ゆゆゆゆゆゆゆゆ二日程

麦も回ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆ

わらびもちせんべい

一米の粉一キロ一生ようもちのこなる
一餅米のこ三合一さとう十匁
右こしあんしてゆかりふんまぜた
切目おかうとかりそばかり
いろゆくこしやげ用ゆかり
みうとくのでーこねこのと
やうかくやさでーおこと
こせんべいのやうまやさ粉に
宮せんべい

一上白餅米一キロ
こくあわく洗ひ能へゆり
かりーこう絞こくこせいぐ
あくこうひゆゆおそうひさ
つこうりのくーあにむー中と
次のとりこう附つくかり
一白こくこ二斤右の餅つ附
こくつき合のー餅のごく
ゆうこ後こくのでーいやう
あとこうり水七日後天あにか
ーしてやくこ右のとり移ますあ

乃移ー

かくこうらいせんべいの方

一白こくこ米とつき
白こくこくこにうげんかへ
つき合くせんべいとややか
やくこ一こうこうこうこうこ
かうこくこくこうこくこ
ふうどんのとまぜ右のやく
ふこくこくやくかり

かきもちの方

一こう搗かふ
ても搗わくもちかよ
こうこくこと九穀米の粉と
あわくこうりこに移り
いくく右乃こにと中へ合て
元あげ油とうくこせこ
やくーわく搗ひこりづく入
わごろし

黄菊饅乃方

山のいもと
えんどうとうこびはろうあそ
切ーこうくこうり白さこう
三分一まぜこでーあくこにう

ぐんぶらぐり油あぶらあぶり
ありやうをこまかにきりけれ
たくらと　一白ごま　二十匁
あら漬上げとりこまかくこと
一白さとう　三人一白　麩　三人分
右三色移り合たらこ
のりさき　ねぎ　移りつめくなは
板のとおあげとこんぶ　湯の
ふくさあくはのしめこみ　漬
牛よ切出とあり

いつやうと　麦のころ米の
移りと　揚ふあをと入わやう
移りと入ふをはふ湯とあさ
こと合むよのあ　一枚
入とり　揚ふくはそれと油
ふくわぐるし但し　枝の移
餅のと三食　細くこたら
ふくこう　右のこ　本に
七つ程入さこうの　せんじ
汁ふひこう　重出とあり

たさこうのせんじ
を竹ふあ一本入　七分の内
せんじるし油ふく　わぐる時
たぐじふくこと　この湯へ入わ
ぐるしありいさ　の内せん
ふくいろくふあり　ふあるあり
ちぢりの方

一白ぐんぜ　百六十目　こまかに
一切　一白ごま
一山椒のこな　右こまか
合切ぐんのとふわ　ふわこみ布と
安こと　こまかとと
ありけぐんぜ　成分づつのぞ
うとぐはく　ぞとにも
ごまとあり　くこみ布と
安これひ　ふくあぐこん
ぐんこうこ　布とこりち
ぐすぐ三三す　程に切わい
ろふかるし　ぐつよこれど
げくもろ　たこうこ

ぎうぎうにいりやうふもこうり
てみかのうかかとれがいもく
そうやぎうぎうこうう

かせいさの方　一あら粉にて
木かとうにいじ　こまかに
ふり内のうえにて　ちとこねあ
とひうこうかへ　あつ粉やうう
うに湯をそそ　て能かあげ
あけのかたやう　あうかてを
つまけかくこう　ぬけとりあ
かうふくう　粉よ重ねり
右乃猪口う　梨子まて要見
白さうう　六百目右の一の
ゆで汁二本程入とくく
あかうかくこう　こう右の通へう
かと後合猫ふ入ちとろう
くこに移りつ　りつかぐんぐ
ぐりちめくさ　ぐけてうち
う一枚板乃ま　げ初上ロに
す涼サ一寸ゆ　ゆり二寸程ふ

ちく〳〵一ちの入とうろく
かで拍〳〵二日程とどこて
うこうまりめろかくち
うろうか方ふで作う
右の粉ゆいかのうりはの
○菓子乃紙

白雪糕　さ菓子くえ
ちとやかの押目とヒ
こやうとよりつう
う

白花琴　山菜　芡實仁
蓮肉　諸月　御法とうく　鯛
たふ細末と　一枚菓一本
餅米五合　細くに移ふヒ
百砂糖　壱斤半
右数のこ餅のこ門ふ合
布袋ふへうこ門ふ梅花
らくもう　ふ門ふさ
と合らくつさ　菓ふと合
みつさく餅とり　うらの

[illegible]

八仙糕　大さに脾胃をやしなふ

[illegible]

一上白穀米を洗ひ清あらひ

[illegible]

せいうあくあらひうすき

入くむと

入參　白茯苓　山藥

芡實仁　蓮肉

右細末にして細末にして

[illegible]

食べうさきそひつきあ

[illegible]

らく湯にてつくり餅と

[illegible]

やけて用ひ

白玉糕　切絲いあひ同し

薏苡仁　蓮肉　雞頭實　山藥

白扁豆　百合

右末粳[illegible]

[illegible]

[illegible]

○菓子の部

【ようかん】

【大ようかん】

【栗ようかん】

【おまき】

【くりんのはやう】

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

柚はりやう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝかと一きゝりて後上ゝとも
もあらねやうゝゝ乃紙とかゝ人
をとゝゝとゝとゝりて紙とゝ
らべ貼りくゝゝのどくゝ
べ風代のねやうゝふゝとて
乗ゝりとゝゝゝわくゝう掛
掛乃ゝらやう　一本掛りゝ
てもゝゝゝくゝくゝいま
ざるくゝゝどゝゝぶけのつゝに時
とり同じ掛のゝゝゝくゝゝ色
掛乃ゝゝねやうゝふゝゝゝ
くゝとゝとゝとゝゝゝゝゝゝ
かゝゝくゝゝれわるねやうゝふつゝ
掛のゝゝゝねゝゝゝゝて伝
みつり五五流のかゝゝねゝゝ
つるゝりなよくゝ乃紙ゝくゝ
ゝ付ゝ掛ゝのゝくゝゝ掛
ひ　竹のゝ乃仕やう　一竹乃ゝ
どゝゝゝくゝゝゝ紙ゝゝ
ら大ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ入

竹乃ゝのゝりゝやゝふつゝゝ
と釜八分ゝ紙入ゝ底のゝゝ掃
とゝゝゝ　息乃ゝ出ゝねやゝふ
ゝくゝ三時紙ゝゝとゝゝ
と焼くゝゝゝゝゝゝ
ゝくゝゝ出ゝゝ時ゝ出　掃のゝ
ゝくゝゝのゝゝゝゝ
て紙とゝゝ五ゝ出ゝけ
いゝくゝゝどゝゝゝゝ
中ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくゝゝゝゝゝゝゝ
つゝゝ

○料理物語

十二月汁のぶん

正月汁のぶん

二月汁のぶん

三月汁のぶん

四月汁のぶん

五月汁のぶん

六月汁のふん

七月汁のふん

八月汁のふん

九月汁のふん

十月けのうん

十一月けのうん

十二月けのうん

歌けのうん

六月おもとのぶん

七月おもとのぶん

八月おまもとのぶん

九月おまもとのぶん

十月おまもとのぶん

十一月おまもとのぶん

十二月おまもとのぶん

定月のゆくへうん

竹のみ

竹のみ

竹のみ

竹のみ

六月のゆくへうん日か

五月のゆくへうん

八月のゆくへうん

九月のゆくへうん

十月乃あゆとれくぶん

十一月乃ふとれくぶん

十二月乃ふとれ

○さしこみ部

四月乃さしこみれぶん

二月のさーこのぶん

三月さーたんのぶん

四月のさーこのぶん

五月のさーたんのぶん

六月のさーこのぶん

七月乃さーこまんぶん

八月乃さーこまんぶん

九月乃さーこのふん

十月乃さーこのふん

十一月さーこまんぶん

十二月さーこまんぶん

○あくのみ〜〜

正月乃あくのみ〜〜

二月乃あへりみくゑん

三月乃あへりみくゑん

四月乃あへりみくゑん

五月六月あへ拍子あ

六月八月拍子あ

九月十月あへ物図あり

十二月のあへ物図あり

○あへものの紙

▲あげごぼう　ごぼうまき
ごぼうまき　ふり
しそあへ　ふり
▲うやかにこりこんにゃく　こんにゃく
あんどんせんかの切　ふりこんん
大らん　のり
▲あげごぼう　ふ
まあ　そうそあへ　のり
▲えんどう　ふ　大らん
ふり　せうが　ゆ
梅りの竹のかたちにんふきり
▲えんどうくるくるあんのとこさう
めうがの竹とごちぐるり
とういちあとさんせうのこ
▲豆よとらやうえんへのりとと
あのくあつぶうえ入ぶうぐんん
ふうさとさあれ入ぶはあるせふ二まつ
入ぶはとそとんあらせふ二まつ
▲ふあらとさ　あのあとてこさ
▲まこうらこび　のり
梅りの　のり　いいこり
▲こうこ豆よろこ
りかふりてのうとあ
▲あらびとでんさ切　のり
▲ふろくくはこそと一まる
▲ふあびとでんさ切　のり
▲うくげ　ふくさ
▲うくげ　ふり

▲うくさんのめ　のり
▲ふのいもあ　ふり
ちくぐ　ふ
▲ふ　めくぐれみ
▲いせあびゆでねさこ
かぐんこれてのりせうが
▲えのこ　せうり
▲いうこ　ふくふ
▲焼小のぢ入みー
川よりめうぐれみ　のり
▲生ふへさけ　のり
▲やんあるちぐふ
▲ぐーのすー　ぐうふ切
▲ーーとうりうり入みー
▲ーーかやそぐわこ品
▲さーこび　ゆとび　とうへ
とうこのこ
▲いせうのめ　ふ
ささ酒ふかふ　ゆ入
▲えん　あまのり
▲あぐんドのり　ひあげ
▲竹のみ　やんく
▲ふーー　ふこれこ
▲ふちすり　ゆて
ふちすり　ゆて

ぐん　ホのよ

▲さしりつぶくわ　ゆのり

▲ふぐいやとそそあし　あさくさ

▲ひーめでんぐわ　あとため

ひーさりとひ口たり

▲えくみ

▲りくげ　つくーー

▲くびのめりさ

▲がん　ふめぐ

▲ちやーーやさ　ゆとび

▲田ゆ　ちれふ

▲やちさちうふ　えくくく

▲ほちり　ぎいさ　えんやう

○着れれ奥名

▲ふちちとちりぐ　ちちゆ

そゆあちれつりあぐり用

▲うんゆくぐりとあぐうたく

ちりてとせちのとちうべー

▲いり　てんく

▲あとびとぐちわぐ　ふゆさ

ーわぐう　さんせくくそ

▲ちんびゆーえ　あとのり

あちりぐちそくえ　ちのどく

みーめゆれ

▲でんぐえ　ちゆ

わぐりいぐちう

▲えちう　ゆりた

▲ふちりとうちゆつけう

ぐう　さくゆちりう

▲えゆ

▲たとあちりぐ

ゆりちりべ　ちりちりの

▲えすゆ　ちりーちりべちの

▲つくくー　ぐんのゆぐーそ

あげさちりりのどく

▲ぎいちすくさちりてゆれちりん

ゆきり　酒を　ちやくゆ

▲さちりせちこ　ゆれちりべ

ちぐちこ入

▲ちゆとざりとゆてひわづけお

いれちそちりちりとゆとれおあを

▲かちちりのちとありこせうのと

ちりてちちゆゆちとくー

▲えちひれちりつたちまりちりむの

ちちちゆちりつたちりれちりれ

ちちれりれ付ひーーちりれ

絲れ白かちれぐくいされ付ゆ

▲ちちく　ちやちぐどりて

▲ちりくの　ちくちちゆちりあを

ちちヒーー

▲ちいりてんぐく　ゆせちりみそそて

▲ちやちちぐちのちりあちりあ

ゆ　くわりちんせゆかを付

▲あちびりたハ　ゆちりとちりひ

ありふちりちちりぐす

▲ちぐゆとれゆれちりとちく

ちくぐとれとりてつけひつゆ

元祿三庚午歳
五月吉日

大坂北久大郎町心齊橋
書林　平兵衛
高辻通永原屋
京都　孫兵衛
日本橋南一丁目
江戸　村上源兵衛

元禄三庚午歳五月吉日